

BZ-8-06



1200901600208

BZ
8
06



參考叢書第四編
各國議院法規

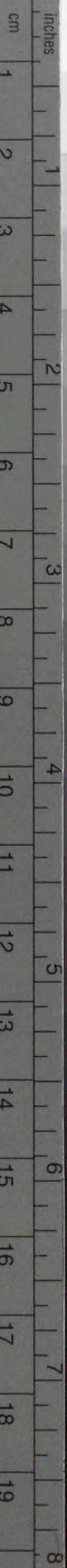
白國部

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

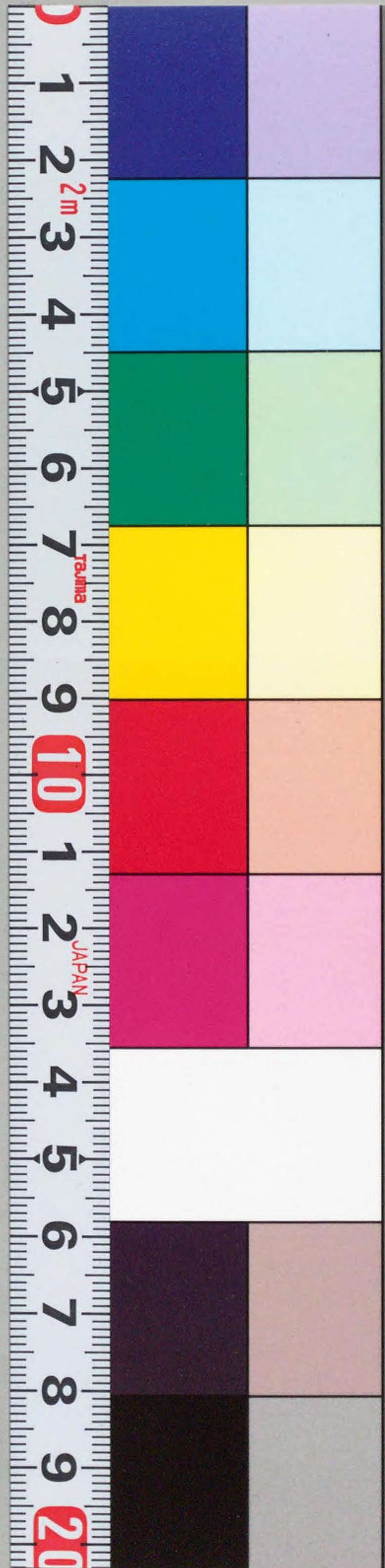
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

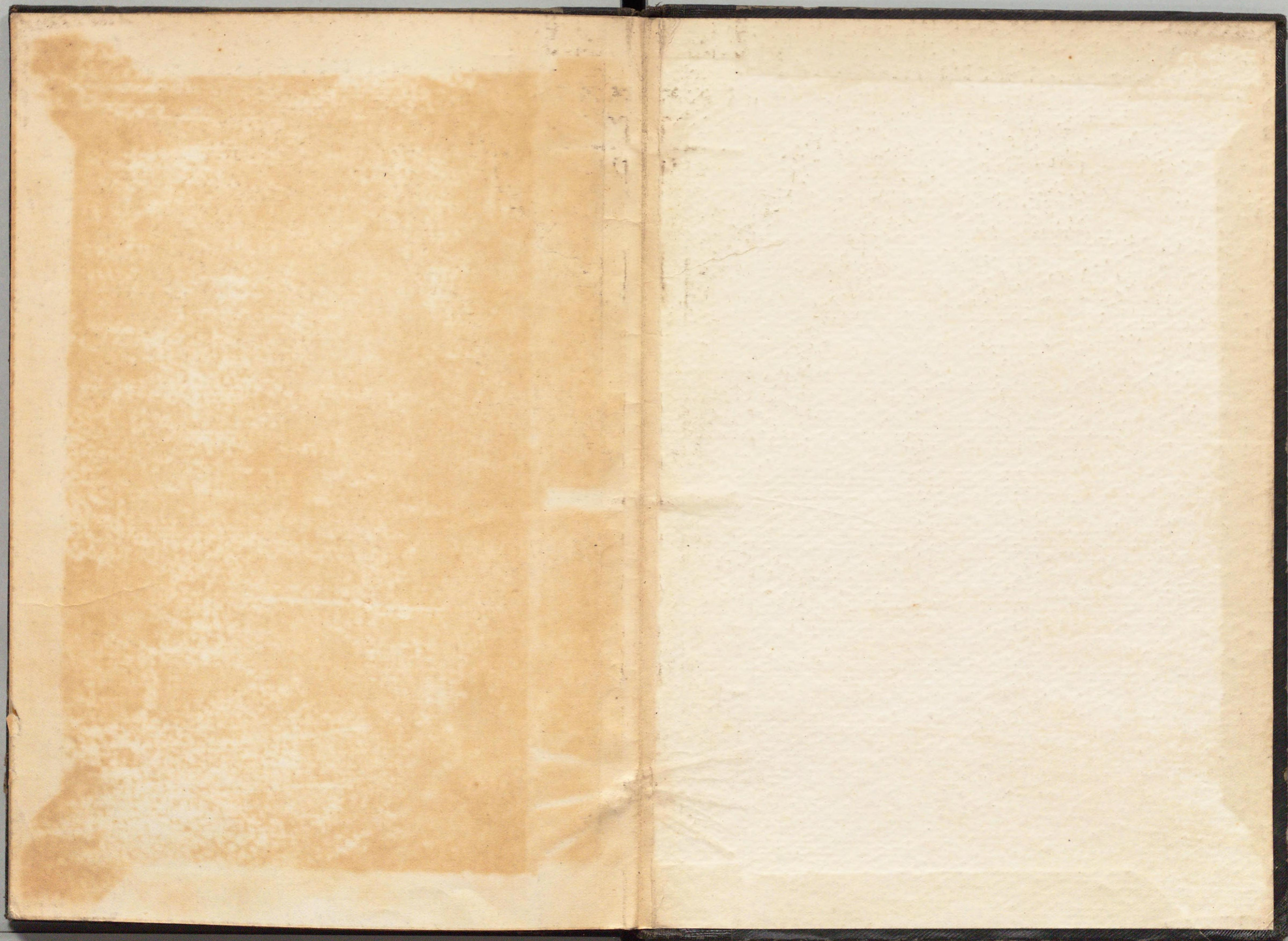


Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



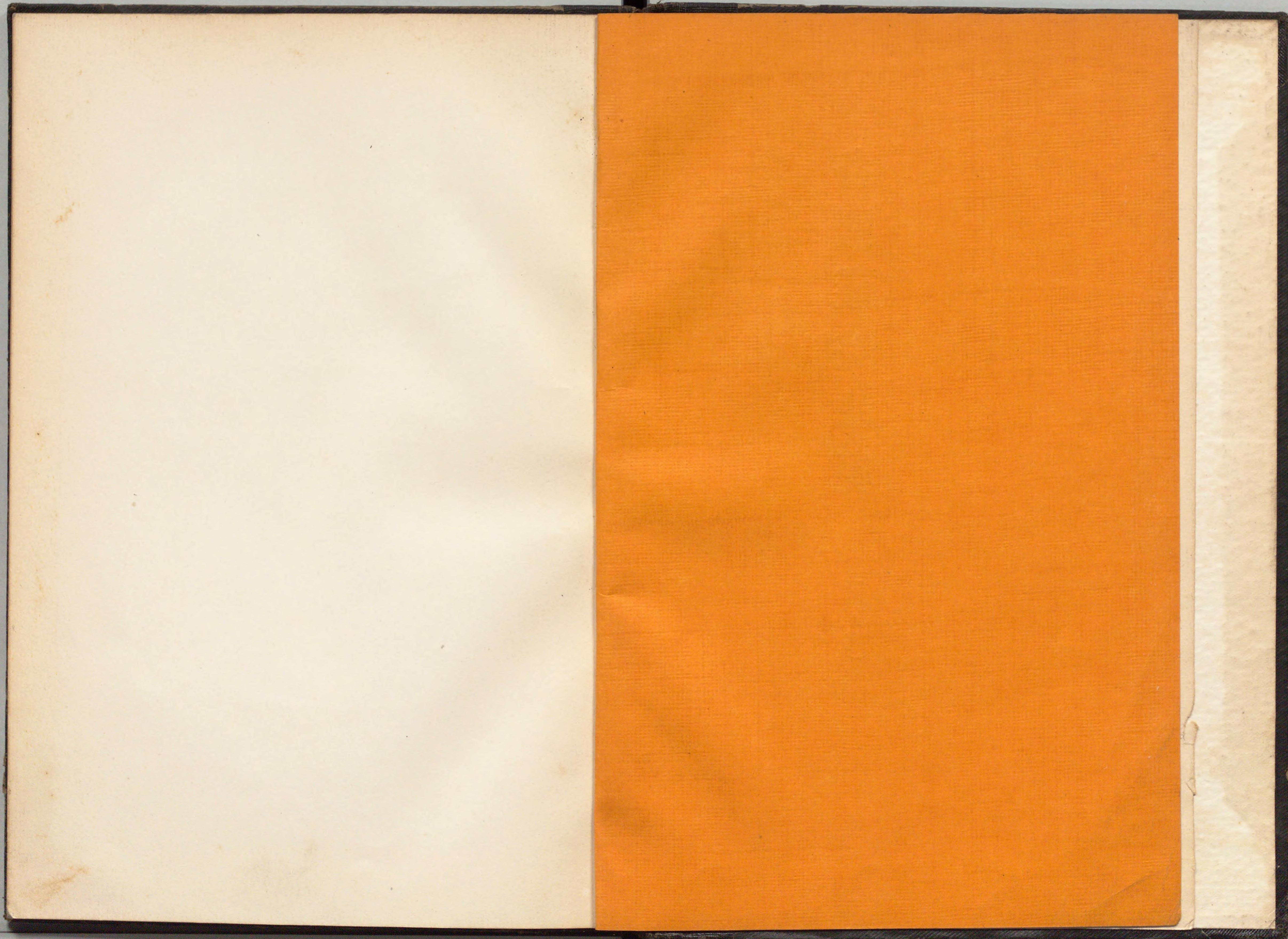


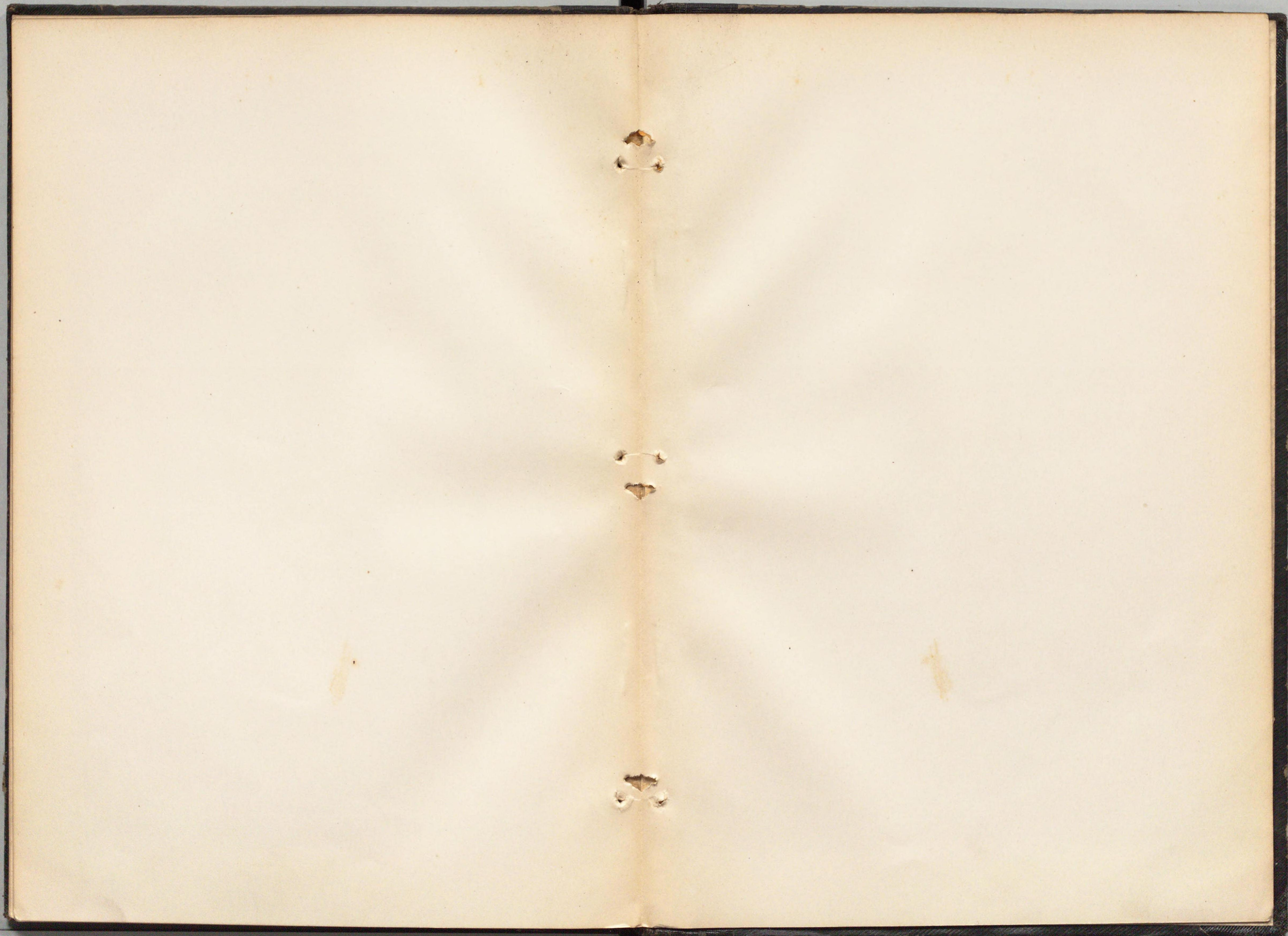
14.3

參考叢書第四編

各國議院法規

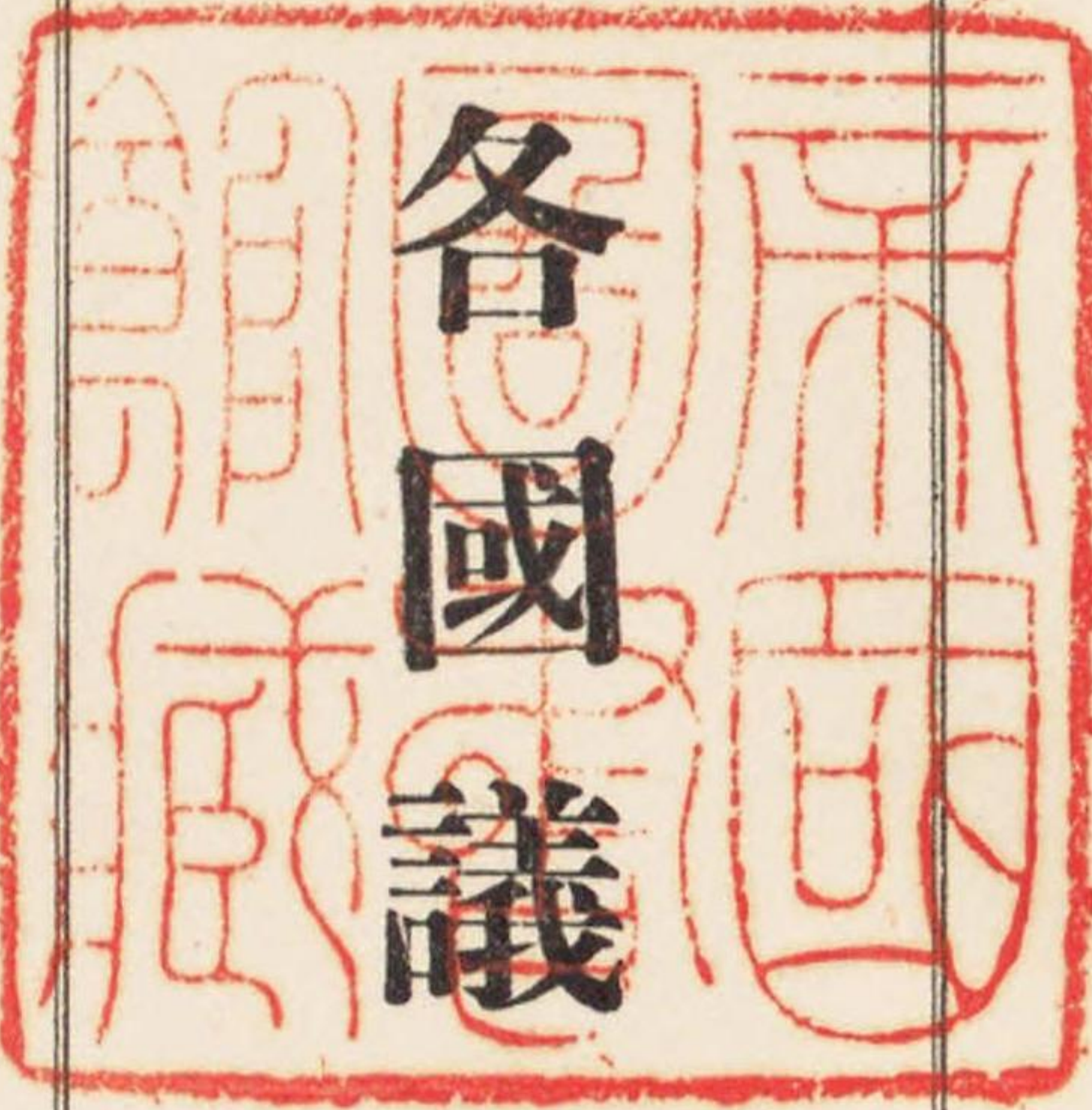
(白國ノ部)





參考叢書第四編

寄贈本



各國議院法規

(白國ノ部)

大正
14. 1. 12
寄贈

衆議院事務局

143-75
B2
806

各國議院法規

目次

白耳義國憲法

第一編	領土及其ノ區劃	一
第二編	白耳義人及其ノ權利	二
第三編	權力	七
第一章	議院	八
第二章	王及國務大臣	二五
第一節	王	二六
第二節	國務大臣	三二

目次



第三章	司法權	三三
第四章	州及市町村ノ制度	三七
第四編	財政	三八
第五編	軍隊	四一
第六編	通則	四二
第七編	憲法ノ改正	四三
第八編	經過規程	四四

白耳義國代議院規則

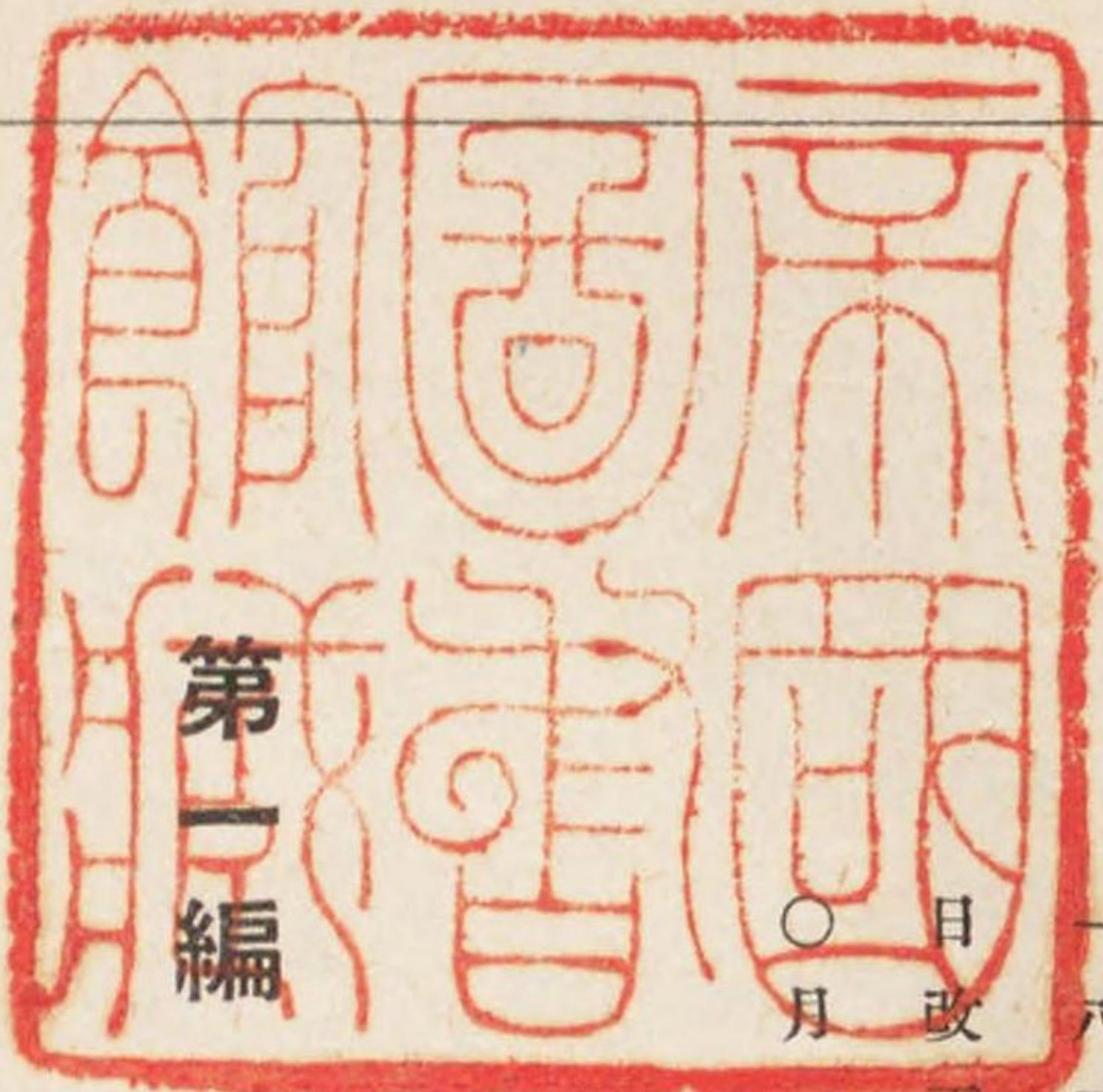
第一章	假理事部及資格審査	四九
第二章	本理事部	五〇
第三章	會議	五三

第四章	紀律	六三
第五章	議案	六六
第六章	部及委員會	七二
第七章	代表議員團及上奏書	七八
第八章	書記、議事録及印刷	七九
第九章	會計員及會計委員會	八一
第十章	圖書室	八三
第十一章	議院ノ雇員及傭人	八四
第十二章	議院警察及傍聽席	八四
第十三章	憲法ノ改正	八五
代議院議員ノ歳費ニ關スル規定		八九
宣誓ニ關スル法律		九一

議院ノ查問ニ關スル法律……………九三
議院ノ解散ガ既ニ提出セラレタル法律案ニ及ボス效果ニ關スル法律……………九七

各國議院法規

白耳義國憲法



一八三一年二月七日制定、一八九三年九月七日改正、一九二〇年十一月一五日改正、一九二一年二月七日改正、一九二一年八月二四日改正、一九二一年一月一五日改正

領土及其ノ區劃

第一條 白耳義國ハ之ヲ左ノ諸州ニ區劃ス。

アンヴェルス プラバント 西フランドル 東フランドル
ヘイノウ リエー
ジュランブール リュクサンブール ナミユール

憲法 第一編 領土及其ノ區劃

領土ヲ前項以外ノ諸州ニ區劃スル必要アルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。
白耳義國ガ殖民地、海外領地又ハ保護領ヲ取得スルハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム。此
等ノ土地ヲ防備スベキ白耳義軍隊ハ任意ノ志願ニ依ルニ非ザレバ之ヲ徵募スルコ
トヲ得ズ。

本條ハ一八九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ハ現行法ノ第一項ノミヨリ成リ、『白耳義國
ハ』ノ次ニ左ノ文字アリタリ、
『リニクサンブールノ獨逸聯邦ニ對スル關係ヲ除クノ外』

第二條 州ノ再區劃ハ法律ニ依ルノ外之ヲ定ムルコトヲ得ズ。

第三條 國、州及市町村ノ境界ハ法律ニ依ルノ外之ヲ變更シ又ハ整理スルコトヲ得ズ。

第二編 白耳義人及其ノ權利

第四條 白耳義人タル資格ハ民法ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取得シ、維持シ及喪失ス。

前項ノ資格ノ外參政權ヲ行フニ必要ナル條件ハ此ノ憲法及參政權ニ關スル他ノ法
律ニ依リ之ヲ定ム。

第五條 歸化ハ立法權ニ依リ之ヲ許可ス。

外國人ヲシテ白耳義人トシテ參政權ヲ行フコトヲ得シムルハ大歸化ニ限ル。

第六條 國內ニ階級ノ區別ナシ。

白耳義人ハ法律ノ前ニ平等ナリ。文武ノ官職ニ就クコトヲ得ルハ特別ノ場合ニ付法
律ヲ以テ定ムル例外ヲ除クノ外白耳義人ニ限ル。

第七條 人身ノ自由ハ之ヲ保障ス。

何人モ法律ノ豫見スル場合ニ於テ法律ノ定ムル手續ニ依ルニ非ザレバ訴追セラ
ルコトナシ。

現行犯罪ノ場合ヲ除クノ外何人モ裁判官ノ理由ヲ附シタル令狀ニ依ルニ非ザレバ
逮捕セラルルコトナシ。令狀ハ逮捕ノ時又ハ遅クモ二十四時間以内ニ之ヲ舉示スル

コトヲ要ス。

第八條 何人モ其ノ意ニ反シテ法律ノ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クル權利ヲ奪ハルルコトナシ。

第九條 如何ナル刑罰モ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ定メ又ハ之ヲ科スルコトヲ得ズ。

第十條 住所ハ侵スベカラズ、住所ノ侵入ハ法律ノ豫見スル場合ニ於テ法律ノ定ムル手續ニ依ルニ非ザレバ行ハルルコトナシ。

第十一條 何人モ公益ノ事由ニ基キ法律ノ定ムル場合ニ於テ法律ノ定ムル方法ニ依リ且豫メ正當ナル補償ヲ支拂フニ非ザレバ其ノ財産ヲ收用セララルルコトナシ。

第十二條 財産沒收ノ刑ハ之ヲ設クルコトヲ得ズ。

第十三條 民事死ハ之ヲ廢止ス、再ビ之ヲ設クルコトヲ得ズ。

第十四條 信教ノ自由、公然之ヲ行使スル自由及如何ナル方法ヲ問ハズ其ノ意見ヲ發表スル自由ハ之ヲ保障ス。但シ此等ノ自由ノ行使ニ際シ行ハルル犯罪ヲ鎮壓スルハ此ノ限ニ在ラズ。

第十五條 何人モ如何ナル方法ヲ問ハズ宗教上ノ行爲及儀式ニ參加シ又ハ安息日ヲ守ルコトヲ強制セラルルコトナシ。

第十六條 國ハ何レノ宗教ヲ問ハズ其ノ教職ノ任命及就職ニ關與シ、教職ガ其ノ上職ト交渉スルコトヲ禁止シ及印刷出版ニ關スル通常ノ責任ヲ除クノ外其ノ文書ヲ公表スルコトヲ禁止スルノ權ヲ有セズ。

民事上ノ婚姻ハ常ニ宗教上ノ婚儀ニ先ツコトヲ要ス。之ニ對スル必要ナル例外ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第十七條 教育ハ自由トス、之ヲ防止スル總テノ手段ハ之ヲ禁止ス、之ニ關スル犯罪ノ鎮壓ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ定ムルコトヲ得ズ。

國ノ費用ヲ以テスル公ノ教育ニ付テモ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第十八條 出版ハ自由トス、出版檢閲ノ制ハ之ヲ設クルコトヲ得ズ、著作者、發行者又ハ印刷者ヨリ保證金ヲ徵スルコトヲ得ズ。

著作者明白ニシテ白耳義國內ニ住所ヲ有スル者ナルトキハ發行者、印刷者又ハ頒布

者ヲ訴追スルコトヲ得ズ。

第十九條 白耳義人ハ平和ニ武器ヲ帶ビズシテ集會ヲ爲スノ權利ヲ有ス、但シ此ノ權利ノ行使ニ付法律ノ定アルトキハ之ニ從フコトヲ要ス、法律ハ集會ニ付豫メ許可ヲ受ケシムルコトヲ得ズ。

前項ノ規定ハ之ヲ屋外集會ニ適用セズ、屋外集會ハ全然警察法律ニ從フコトヲ要ス。

第二十條 白耳義人ハ結社ヲ爲スノ權利ヲ有ス、此ノ權利ハ何等ノ防止手段ニ服スルコトナシ。

第二十一條 各人ハ一人又ハ多數人ノ署名ヲ以テ請願ヲ官憲ニ提出スル權利ヲ有ス、集合的ノ名ヲ以テ請願ヲ提出スル權利ハ公認セラレタル團體ニ限り之ヲ有ス。

第二十二條 信書ノ祕密ハ侵スベカラズ。

郵便ニ託シタル信書ノ祕密ノ侵犯ニ付責ニ任ズベキ者ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第二十三條 白耳義國內ニ行ハルル言語ノ使用ハ任意トス、言語ノ使用ニ關スル規定ハ公權力ノ行爲及司法事件ニ限り且法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ定ムルコトヲ得ズ。

第二十四條 官吏ノ職務上ノ行爲ニ付之ヲ訴追スルニハ國務大臣ニ關シ特別ノ定アル場合ヲ除クノ外豫メ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトナシ。

第三編 權力

第二十五條 總テノ權力ハ國民ヨリ發ス。

此ノ權力ハ憲法ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ行フ。

第二十六條 立法權ハ王、代議院及元老院共同ニ之ヲ行フ。

第二十七條 發案權ハ立法權ノ三部各之ヲ有ス。

本條ハ一九二一年一〇月一五日ノ改正ニ係ル。舊法ニハ現行法ノ外第二項トシテ別ニ左ノ一項アリタリ。

『但シ國ノ收入若ハ經費ニ關スル法律又ハ徵募兵數ニ關スル法律ハ代議院先ツ之ヲ議決

スルコトヲ要ス。

第二十八條 權威ヲ以テ法律ヲ解釋スルノ權ハ立法權ニノミ屬ス。

第二十九條 行政權ハ憲法ノ定ムル所ニ依リ王ニ屬ス。

第三十條 司法權ハ裁判所之ヲ行フ。

決定及判決ハ王ノ名ニ於テ之ヲ執行ス。

第三十一條 專ラ市町村又ハ州ノ利害ニ關スル事項ハ憲法ノ定ムル主義ニ從ヒ市町村會又ハ州會ニ於テ之ヲ定ム。

第一章 議院

第三十二條 兩議院ノ議員ハ國民ヲ代表スル者ニシテ之ヲ選出シタル州又ハ州ノ一部ノミヲ代表スル者ニ非ズ。

第三十三條 兩議院ノ議事ハ公開ス。

各議院ハ議長又ハ議員十人ノ請求ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得。

此ノ場合ニ於テ同一ノ問題ニ付再ビ之ヲ公開スベキヤ否ヤハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス。

第三十四條 各議院ハ其ノ議員ノ資格ヲ審査シ之ニ關シテ生ズル爭議ヲ裁判ス。

第三十五條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ。

第三十六條 兩議院ノ何レカーノ議員ニシテ政府ニ依リ國務大臣以外ノ有給ノ官職ニ任命セラレ之ヲ受諾シタル者ハ直ニ議員ノ職ヲ失ヒ再ビ選舉セララルニ非ザレバ其ノ職ニ就クコトヲ得ズ。

本條ハ一八九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ニハ「國務大臣以外ノ」ノ文字ナシ。

第三十七條 每會期ニ於テ各議院ハ其ノ議長、副議長ヲ選舉シ及其ノ理事部ヲ組織ス。

第三十八條 總テ議決ハ選舉及推薦ニ付議院規則ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外投票ノ過半数ニ依ル。

可否同數ナル場合ニ於テハ議題ハ否決セラレタルモノトス。

兩議院ノ何レニ於テモ其ノ議員ノ過半數ノ出席アルニ非ザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ズ。

第三十九條 議決ハ口頭ヲ以テ贊否ヲ表セシメ又ハ起立ヲ爲サシムルニ依リ之ヲ行フ、法律ノ全體ニ關スル議決ニ在リテハ常ニ氏名點呼ニ依リ口頭ヲ以テ贊否ヲ表セシム。選舉及候補者ノ推薦ハ祕密投票ヲ以テ之ヲ行フ。

第四十條 各議院ハ查問ノ權利ヲ有ス。

第四十一條 各議院ハ法律案ノ逐條ニ付議決シタル後ニ非ザレバ之ヲ可決スルコトヲ得ズ。

第四十二條 兩議院ハ各條及其ノ修正ノ發議ニ付之ヲ修正シ又ハ分割スル權利ヲ有ス。

第四十三條 自ラ議院ニ出頭シテ請願ヲ提出スルコトハ之ヲ禁止ス。

各議院ハ議院ニ提出セラレタル請願ヲ國務大臣ニ送付スル權利ヲ有ス。國務大臣ハ

議院ノ要求アル場合ニ於テハ其ノ内容ニ付説明ヲ與フルコトヲ要ス。

第四十四條 兩議院ノ何レカーノ議員ハ其ノ職務ノ行使ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付訴追又ハ審問ヲ受クルコトナシ。

第四十五條 兩議院ノ何レカーノ議員ハ何人モ現行犯罪ノ場合ヲ除クノ外其ノ所屬ノ議院ノ許諾アルニ非ザレバ會期中犯罪ニ因リ訴追又ハ逮捕セララルコトナシ。兩議院ノ何レカーノ議員ニ對シテハ會期中其ノ所屬ノ議院ノ許諾アルニ非ザレバ身體ノ拘束ヲ加フルコトヲ得ズ。

兩議院ノ何レカーノ議員ノ拘留又ハ之ニ對スル訴追ハ議院ノ要求アルトキハ會期中之ヲ停止ス。

第四十六條 各議院ハ其ノ規則ヲ以テ其ノ權限ヲ行フ方法ヲ定ム。

第一節 代議院

第四十七條 代議院議員ハ年齡滿二十一歳ニ達シ少クモ六箇月以來同一市町村内ニ住所ヲ有シ且ツ法律ノ定ムル除斥原因ノ何レノ一ニモ該當セザル公民直接ニ之ヲ

選舉ス。

各選舉人ノ有スル權利ハ一票ニ限ル。

法律ニ依リ同一ノ條件ヲ以テ投票權ヲ女子ニ與フルコトヲ得。此ノ法律ニハ少クモ投票者三分ノ二ノ贊成アルコトヲ要ス。

本條ハ一九二一年二月七日ノ改正ニ係ル。此ノ改正ハ一八九三年ノ改正ヲ再改正シタルモノニシテ一八三一年ノ原文ハ左ノ如クナリキ。

『代議院議員ハ選舉法ノ定ムル租稅ヲ納付スル公民直接ニ之ヲ選舉ス、此ノ租稅ハ直接稅百「フロリン」ヲ超ユルコトヲ得ズ又二十「フロリン」ヲ下ルコトヲ得ズ』

一八九三年ノ改正原文ハ左ノ如シ。

『代議院議員ハ左ノ條件ニ依リ直接ニ之ヲ選舉ス。

滿二十五歳ニ達シタル公民ニシテ少クモ一年以來同一ノ市町村内ニ住所ヲ有シ且ツ法律ノ定ムル除斥原因ノ一ニ該當セザル者ハ一個ノ投票權ヲ有ス。

左ニ掲グル條件ノ何レカーヲ備フル者ハ別ニ一個ノ追加投票權ヲ有ス。

一、滿三十五歳ニ達シ、有妻又ハ嫡出子ヲ有スル寡夫ニシテ且ツ職業ニ基キ租稅ヲ免

除セララルル者ヲ除クノ外其ノ住居又ハ其ノ占有スル家屋ニ付世帯主トシテ少クモ五「フラン」ノ租稅ヲ國ニ納付スル者ナルコト。

二、滿二十五歳ニ達シ且ツ左ノ何レカーニ相當スル財産ヲ有スル者ナルコト。

イ 土地臺帳上ノ收入ヲ基礎トシテ計算シ地價二千「フラン」以上ニ該當スル不動産又ハ此ノ價格ニ相當スル土地臺帳上ノ收入アル不動産。

ロ 百「フラン」以上ノ利子ヲ生ズベキ國債證書又ハ貯金局貯金ヲ有スル者トシテ國債原簿又ハ貯金原簿ニ登録セラレタル者。

國債原簿又ハ貯金原簿ニハ少クモ二年以來登録セラレタル者ナルコトヲ要ス。妻ノ財産ハ之ヲ夫ノ財産ニ加算ス、子ノ財産ハ之ヲ父ノ財産ニ加算ス。

滿二十五歳ニ達シタル公民ニシテ左ニ掲グル條件ノ何レカーヲ備フル者ハ二個ノ追加投票權ヲ有ス。

一、公立ト私立トヲ問ハズ大學ノ卒業證書又ハ高等ノ中學教育ノ全科ニ付修業證書ヲ有スル者。

二、少クモ高等ノ中學教育ヲ終ヘタル學力ヲ要スルモノト認ムベキ公職、地位又ハ職業ニ在ル者又ハ在リタル者。之ニ該當スベキ公職、地位又ハ職業ノ種類及場合ニ依リ其ノ公職、地位又ハ職業ニ在リタルコトヲ要スル年限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

何人モ三票ヨリ多キ投票權ヲ有スルコトヲ得ズ。』

第四十八條 選舉人會ノ組織ハ各州ニ付法律ヲ以テ之ヲ定ム。

選舉ハ法律ノ定ムル比例代表ノ方法ニ依リ之ヲ行フ。

投票ハ強制且祕密トス。選舉ハ法律ノ定ムル例外ヲ除クノ外市町村ニ於テ之ヲ行フ。

本條ハ一九二〇年一月一五日ノ改正ニ係ル。此ノ改正ハ一八九三年ノ改正ヲ再改正シタルモノニシテ、一八三一年ノ原文ハ左ノ如クナリキ。

『選舉ハ法律ノ定ムル州ノ一部毎ニ法律ノ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ。』

一八九三年ノ改正原文ハ左ノ如シ。

『選舉人會ノ組織ハ各州ニ付法律ヲ以テ之ヲ定ム。』

投票ハ強制トシ、法律ノ定ムル例外ヲ除クノ外市町村ニ於テ之ヲ行フ。』

第四十九條 代議院議員ノ數ハ人口ニ比例シテ選舉法ヲ以テ之ヲ定ム、其ノ數ハ住民

四萬人ニ付議員一人ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ。

選舉人タルニ必要ナル條件及選舉ノ執行ノ手續モ選舉法ヲ以テ之ヲ定ム。

第五十條 被選舉人タルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス。

一 出生ニ依リ白耳義人タリ又ハ大歸化ヲ得タル者ナルコト

二 民權及參政權ヲ享有スル者ナルコト

三 滿二十五歳ニ達シタルコト

四 白耳義國內ニ住所ヲ有スルコト

前項ノ條件ノ外他ノ條件ヲ以テ被選舉權ノ要件ト爲スコトヲ得ズ。

本條ハ一九二〇年一月一五日ノ改正ニ係ルト雖モ、其ノ改正ハ唯字句ノ修正ニ止マリ意義ニ變更ナシ。

第五十一條 代議院議員ノ任期ハ四年トス。

代議院ハ四年毎ニ之ヲ改選ス。

本條ハ一九二一年一月一五日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

『代議院議員ノ任期ハ四年トシ、二年毎ニ選舉法ノ定ムル順序ニ依リ其ノ半數ヲ改選ス。解散ノ場合ニ於テハ議院ノ全部ヲ改選ス。』

第五十二條 各代議院議員ハ毎年一萬二千フランノ歳費ヲ受ク。

前項ノ外議員ハ國ノ經營シ又ハ其ノ特許ニ係ル總テノ交通線路ニ付自由乘車ノ權

利ヲ有ス。
前項ニ定ムル線路ノ外議員ガ無償ヲ以テ利用シ得ベキ運送手段ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

代議院議長ハ代議院ノ經費ニ充テラルル豫算中ヨリ別ニ歳費ヲ受クルコトヲ得。
代議院ニ於テ退隱料又ハ恩給ノ制度ヲ設クルコトヲ適當ト認ムルトキハ歳費中ヨリ其ノ基金ニ充ツル爲ニ納付スベキ金額ヲ定ムルコトヲ得。

本條ハ一九二〇年一月一五日ノ改正ニ係ル。此ノ改正ハ一八九三年ノ改正ヲ再改正シタルモノニシテ、一八三一年ノ原文ハ左ノ如クナリキ。

『各代議院議員ハ會期中毎月二百「フロリン」ノ報酬ヲ受ク。議院ノ開會セララルル市内ニ居住スル議員ハ報酬ヲ受クルコトナシ。』

一八九三年ノ改正原文ハ左ノ如シ。

『代議院議員ハ毎年四千「フラン」ノ歳費ヲ受ク。

前項ノ外議員ハ國ノ鐵道ノ總テノ線路ニ付自由乗車ノ權利ヲ有シ及其ノ居住地ヨリ開會地ニ至ル迄ノ特許セラレタル鐵道線路ニ付無償乗車ノ權利ヲ有ス。』

第二節 元老院

第五十三條 元老院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス。

一 第四十七條ノ規定ニ從ヒ各州ノ人口ニ比例シテ選舉セラレタル議員。第四十八條ノ規定ハ此ノ元老院議員ノ選舉ニ之ヲ適用ス。

二 州會ニ於テ住民二十萬人ニ付一人ノ割合ヲ以テ選舉スル議員。其ノ端數十二萬五千人ヲ超ユルトキハ更ニ一人ヲ選舉ス。但シ各州會ニ於テ少クモ議員三人ヲ選舉ス。

三 元老院ニ於テ州會ノ選舉シタル議員數ノ半數ニ等シキ割合ヲ以テ選舉スル議員。但シ州會ノ選舉シタル議員數奇數ナルトキハ一人ヲ増加ス。

本號ノ議員ハ本條第一號及第二號ニ依リ選舉セラレタル元老院議員之ヲ選舉ス。
第二號及第三號ニ依リ選舉スル元老院議員ノ選舉ハ法律ノ定ムル比例代表ノ方法ニ依リ之ヲ行フ。

本條ハ一九二一年一〇月一五日ノ改正ニ係ル。此ノ改正ハ一八九三年ノ改正ヲ再改正シタルモノニシテ、一八三一年ノ原文ハ左ノ如クナリキ。

『元老院議員ハ各州ノ人口ニ比例シテ代議院議員ヲ選舉スル公民之ヲ選舉ス。』
一八九三年ノ改正原文左ノ如シ。

『元老院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス。』

一 第四十七條ノ規定ニ從ヒ各州ノ人口ニ比例シテ選舉セラレタル議員。但シ法律ハ選舉人ガ滿三十年ニ達シタルコトヲ要スルモノト爲スコトヲ得。第四十八條ノ規定ハ此ノ元老院議員ノ選舉ニ之ヲ適用ス。

二 州會ニ於テ選舉セラレタル議員。但シ其ノ員數ハ人口五十萬未滿ノ州ニ於テハ二人、人口五十萬以上百萬未滿ノ州ニ於テハ三人、人口百萬以上ノ州ニ於テハ四人トス。』

第五十四條 直接ニ選舉人會ニ於テ選舉スル元老院議員ノ員數ハ代議院議員ノ半數トス。

本條ハ一八九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

『元老院議員ノ員數ハ代議院議員ノ半數トス。』

第五十五條 元老院議員ノ任期ハ四年トス。元老院ハ四年毎ニ其ノ全部ヲ改選ス。

本條ハ一九二一年一〇月一五日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

『元老院議員ノ任期ハ八年トシ、四年毎ニ選舉法ノ定ムル順序ニ依リ其ノ半數ヲ改選ス。解散ノ場合ニ於テハ議院ノ全部ヲ改選ス。』

第五十六條 元老院議員トシテ選舉セララルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス、

- 一 出生ニ依リ白耳義人タリ又ハ大歸化ヲ得タル者ナルコト
- 二 民權及參政權ヲ享有スル者ナルコト
- 三 白耳義國內ニ居住スルコト
- 四 年齡少クモ滿四十歲ナルコト

本條ハ一九二一年一〇月一五日ノ改正ニ係ル。此ノ改正ハ一八九三年ノ改正ヲ再改正シタルモノニシテ、一八三一年ノ原文ハ左ノ如クナリキ。

『元老院議員トシテ選舉セラレ及在職スルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス。』

- 一 出生ニ依リ白耳義人タリ又ハ大歸化ヲ得タル者ナルコト。
 - 二 參政權及民權ヲ享有スル者ナルコト。
 - 三 白耳義國內ニ居住スルコト。
 - 四 年齡少クモ滿四十歲ナルコト。
 - 五 白耳義ニ於テ特許料ヲ合セ直接税一千「フロリン」以上ヲ納ムル者ナルコト。
- 直接税一千「フロリン」以上ヲ納ムル者人口六千人ニ付一人ノ割合ニ達セザル州ニ於テハ此ノ割合ニ達スル迄最多額納税者ヲ以テ之ヲ補充ス。』

一八九三年ノ改正原文ハ左ノ如シ。

元老院議員トシテ選舉セラレ及在職スルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス。

一 出生ニ依リ白耳義人タリ又ハ大歸化ヲ得タル者ナルコト。

二 民權及參政權ヲ享有スル者ナルコト。

三 白耳義國內ニ居住スルコト。

四 年齢少クモ滿四十歳ナルコト。

五 特許料ヲ合セ直接税千二百フラン以上ヲ國庫ニ納付スルコト又ハ白耳義國內ニ於テ土地臺帳上ノ收入少クモ一萬二千フランニ達スル不動産ノ所有者又ハ收益者ナルコト。

元老院議員トシテ選舉セララルル資格ヲ有スル者人口五千人ニ付一人ノ割合ニ達セザル州ニ於テハ此ノ割合ニ達スル迄其ノ州ニ於ケル最多額納税者ヲ以テ該名簿ヲ補充ス。補充名簿ニ記載セラレタル公民ハ其ノ住所地タル州ニ於ケルノ外選舉セララルルコトヲ得

ス。

第五十六條ノ二 第五十三條第一號ニ依リ元老院議員トシテ選舉セララルルニハ前條ノ外左ノ各號ノ何レカ一ニ該當スル者ナルコトヲ要ス。

- 一 國務大臣又ハ前國務大臣
- 二 代議院又ハ元老院ノ議員又ハ前議員
- 三 法律ノ指定スル高等教育機關ノ何レカ一ノ卒業證書ヲ有スル者
- 四 陸軍又ハ海軍ノ前上級將校
- 五 商事裁判所ノ所員又ハ前所員ニシテ少クモ二期ニ互リ選舉セラレタル者
- 六 教職ニ對シ國庫ヨリ俸給ヲ支給スル宗派ノ一ニ於テ少クモ十年間管長ノ職ニ在リタル者
- 七 王立學士院ノ一ニ於ケル正會員若ハ前正會員又ハ法律ノ指定スル高等教育機關ノ一ニ於ケル教授若ハ前教授
- 八 前州知事、州參事會員又ハ前會員、前郡長
- 九 州會ノ議員又ハ前議員ニシテ少クモ二期ニ互リ選舉セラレタル者
- 十 郡廳所在地ノ市町村又ハ住民數四千人ヲ超ユル市町村ニ於ケル市町村長、前市町村長、助役又ハ前助役

- 十一 白耳義領「コンゴ」ノ前知事又ハ副知事、殖民地評議員又ハ前會員
- 十二 各省ニ於ケル前局長、前局次長、前監察官
- 十三 土地臺帳上ノ收入少クモ一萬二千「フラン」ニ達スル白耳義國內ノ不動産ノ所有者又ハ收益者、直接税一年ニ付少クモ三千「フラン」ヲ國庫ニ納ムル納税者
- 十四 資本拂込金額少クモ百萬「フラン」ノ白耳義ノ商事株式會社ニ於テ取締役、支配人又ハ類似ノ職名ヲ以テ五年間日常事務ノ管理ヲ主宰シタル者
- 十五 常時勞働者少クモ百人ヲ使用スル工場ノ事業主又ハ地積少クモ五十「ヘクタール」ヲ含ム農場ノ事業主
- 十六 五年以來社員少クモ五百人ヲ有スル白耳義社團法人ニ於テ理事又ハ類似ノ職名ヲ以テ三年間日常事務ノ管理ヲ主宰シタル者
- 十七 五年以來社員少クモ一千人ヲ有スル相互會社又ハ相互組合ニ於テ社員タル資格ヲ以テ五年間社長、組合長又ハ理事ノ職ヲ行ヒタル者
- 十八 五年以來會員少クモ五百人ヲ有スル職業上、工業上又ハ農業上ノ組合ニ於テ

五年間組合長又ハ理事ノ職ヲ行ヒタル者

十九 五年以來會員少クモ三百人ヲ有スル商業會議所又ハ工業會議所ニ於テ五年間會頭ノ職ヲ行ヒタル者

二十 工業會議、勞働會議、州農業委員會、爭議仲裁會議ノ會員ニシテ少クモ二期ニ互リ選舉セラレタル者

二十一 各省ニ附屬スル評議會ノ一ニ屬スル選舉セラレタル評議員

以上ノ外法律ヲ以テ選舉セラルベキ資格ヲ追加スルコトヲ得。此ノ法律ニハ投票者少クモ三分ノ二ノ賛成アルコトヲ要ス。

本條ハ一九二一年一〇月一五ノ改正ニ係ル。舊法ハ一八九三年ニ追加セラレタルモノニシテ其ノ原文左ノ如シ。

『州會ニ於テ選舉セラルル元老院議員ハ納税ニ關スル資格ヲ要セズ、但シ之ヲ選舉スル州會ニ所屬スル者ナルコトヲ得ズ又選舉ノ年若ハ其ノ前二年間ニ於テ之ニ所屬シタル者ナルコトヲ得ズ。』

第五十六條ノ三 州會ニ於テ選舉セラルル元老院議員ハ之ヲ選舉スル州會ニ所屬ス

ル者ナルコトヲ得ズ又選舉ノ年若ハ其ノ前二年間ニ於テ之ニ所屬シタル者ナルコトヲ得ズ。

本條ハ一九二一年一〇月一五日新ニ追加セラレタルモノナリ。

第五十六條ノ四 元老院解散ノ場合ニ於テハ王ハ州會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得。

解散ヲ命ズル文書ニハ四十日以内ニ州選舉人ヲ及二箇月以内ニ州會ヲ召集スル旨ヲ記載ス。

本條ハ一九二一年一〇月一五日新ニ追加セラレタルモノナリ。

第五十七條 元老院議員ハ報酬ヲ受クルコトナシ。

元老院議員ハ其ノ失費ニ付辨償ヲ受ク此ノ辨償ハ一年ニ付四千フラントス。

前項ノ外元老院議員ハ國ノ經營シ又ハ其ノ特許ニ係ル總テノ交通線路ニ付自由乗車ノ權利ヲ有ス。

前項ニ定ムル線路ノ外議員ガ無償ヲ以テ利用シ得ベキ運送手段ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

本條ハ一九二一年一〇月一五日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

『元老院議員ハ報酬又ハ辨償ヲ受クルコトナシ。』

第五十八條 王子又ハ王子アラザルトキハ王位繼承ノ順位ニ當ル系統ニ屬スル王族

男子ハ滿十八歳ニ達スルニ依リ元老院議員ト爲ル、但シ滿二十五歳ニ達スルマデハ

表決ニ加ハルコトヲ得ズ。

本條ハ一九九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

『王ノ儲嗣ハ滿十八歳ニ達スルニ依リ元老院議員ト爲ル、但シ滿二十五歳ニ達スルマデハ表決ニ加ハルコトヲ得ズ。』

第五十九條 代議院ノ會期以外ニ於テ開會シタル元老院ノ總テノ會議ハ當然無効トス。

第二章 王及國務大臣

第一節 王

第六十條 王ノ憲法上ノ權力ハ長系ノ順序ニ依リ「レオポルド、ジョージ、クレチアン、フレデリック、ド、サツクスコープ」ル「陛下ノ實系且嫡出ノ直系子孫タル男子ニ之ヲ傳フ、女子及女系ノ子孫ハ永久ニ之ヲ除外ス。

王又ハ王アラザル場合ニ於テ憲法ノ定ムル所ニ依リ王ノ權力ヲ行フ者ノ認許ヲ得ズシテ婚姻ヲ爲シタル王族ハ王位繼承ノ權利ヲ失フ。

王又ハ王アラザル場合ニ於テ憲法ノ定ムル所ニ依リ王ノ權力ヲ行フ者ハ兩議院ノ同意ヲ得テ前項ノ王族ヲシテ王位繼承ノ權利ヲ回復セシムルコトヲ得。

本條ハ一八九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

「王ノ憲法上ノ權力ハ長系ノ順序ニ依リ「レオポルド、ド、サツクスコープ」ル「陛下ノ實系且嫡出ノ直系子孫タル男子ニ之ヲ傳フ、女子及女系ノ子孫ハ永久ニ之ヲ除外ス。」

第六十一條 「レオポルド、ジョージ、クレチアン、フレデリック、ド、サツクスコープ」ル「陛下下ノ子孫タル男子アラザルトキハ王ハ次條ニ定ムル方法ヲ以テ兩議院ノ同意ヲ得

テ王嗣ヲ立ツルコトヲ得。

前項ニ依リ王嗣ヲ立テザリシ場合ニ於テハ王位ハ闕位ト爲ル。

本條ハ一八九三年九月七日ノ改正ニ係ル。舊法ノ原文ハ左ノ如シ。

「レオポルド、ド、サツクスコープ」ル「陛下下ノ子孫タル男子アラザルトキハ陛下ハ次條ニ定ムル方法ヲ以テ兩議院ノ同意ヲ得テ王嗣ヲ立ツルコトヲ得。

前項ニ依リ王嗣ヲ立テザリシ場合ニ於テハ王位ハ闕位ト爲ル。」

第六十二條 王ハ兩議院ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ同時ニ他國ノ元首ト爲ルコトヲ得ズ。

兩議院ノ何レニ於テモ議員全數ノ三分ノ二ノ出席アルニ非ザレバ前項ノ事件ニ付議事ヲ開クコトヲ得ズ又投票者ノ三分ノ二ノ贊成アルニ非ザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ズ。

第六十三條 王ノ一身ハ侵スベカラズ責任ハ國務大臣之ヲ負フ。

第六十四條 王ノ總テノ行爲ハ一國務大臣ノ副署アルニ非ザレバ效果ヲ生ズルコトナシ、國務大臣ハ副署ノミニ依リ之ニ付其ノ責ニ任ズ。

第六十五條 王ハ國務大臣ヲ任免ス。

第六十六條 王ハ軍隊ニ於ケル官階ヲ授與ス。

王ハ法律ノ定ムル特例ヲ除クノ外一般行政及外交ニ關スル官職ニ任命ス。

前項ノ官職ノ外王ハ法律ノ明示ノ規定ニ依ルニ非ザレバ他ノ官職ニ任命スルコトナシ。

第六十七條 王ハ法律ヲ執行スル爲必要ナル規則ヲ定メ命令ヲ發ス、但シ法律ヲ停止シ又ハ其ノ執行ヲ免除スルノ權ヲ有スルコトナシ。

第六十八條 王ハ陸海軍ヲ統帥シ、戰ヲ宣シ、講和條約、同盟條約及通商條約ヲ締結ス。王ハ國ノ利益及安全ノ許ス限リ此等ニ付適當ナル説明ヲ附シ之ヲ議院ニ報告ス。

通商條約、國庫ノ負擔ヲ生スベキ條約又ハ白耳義人タル各個人ヲ拘束スル條約ハ兩議院ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズルコトナシ。

領土ノ割讓、交換又ハ取得ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ。如何ナル場合ニ於テモ條約ノ祕密ノ條項ヲ以テ其ノ公示ノ條項ヲ破棄スルコトヲ得ズ。

第六十九條 王ハ法律ヲ裁可シ及公布ス。

第七十條 兩議院ハ毎年十一月第二火曜日ニ於テ自ラ集會ス、但シ其ノ以前ニ於テ王之ヲ召集シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。

兩議院ハ毎年少クモ四十日間開會スルコトヲ要ス。

王ハ閉會ヲ宣告ス。

王ハ臨時兩議院ヲ召集スルノ權ヲ有ス。

第七十一條 王ハ兩議院ヲ同時ニ又ハ各院單獨ニ解散スルノ權ヲ有ス。解散ヲ命ズル文書ニハ四十日以内ニ選舉人ヲ及二箇月以内ニ議院ヲ召集スル旨ヲ記載ス。

第七十二條 王ハ兩議院ノ停會ヲ命ズルコトヲ得、停會ノ期間ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ズ、又兩議院ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ同一會期中之ヲ再ビスルコトヲ得ズ。

第七十三條 王ハ國務大臣ニ關シ別段ノ定アルモノヲ除クノ外裁判官ノ宣告シタル刑ヲ赦免シ又ハ減輕スルノ權ヲ有ス。

第七十四條 王ハ法律ニ從ヒ貨幣ヲ鑄造スルノ權ヲ有ス。

第七十五條 王ハ貴族ノ稱號ヲ授與スルノ權ヲ有ス、但シ之ニ何等ノ特權ヲ附スルコトヲ得ズ。

第七十六條 王ハ軍事勳章ヲ授與ス、但シ其ノ授與ニハ法律ノ定ムル所ニ從フコトヲ要ス。

第七十七條 王室經費ハ在位ノ全期間ニ付法律ヲ以テ其ノ額ヲ定ム。

第七十八條 王ハ憲法及憲法ニ基キテ定ムル各法律ニ依リ王ニ屬セシメタル權力ノ外如何ナル權力ヲモ有スルコトナシ。

第七十九條 王崩スルトキハ兩議院ハ崩去ノ後遅クモ十日以内ニ召集ヲ待タズシテ集會ス。兩議院其ノ以前ニ於テ解散セラレ而シテ解散ノ命令ニ記シタル召集ノ期日十日以後ニ在ルトキハ舊議院ハ新議院ノ集會スルニ至ルマデ再ビ其ノ職務ヲ行フ。一議院ノミ解散セラレタル場合ニ於テハ此ノ議院ニ付前項ノ規定ニ依ル。

王崩シタル日ヨリ王嗣又ハ攝政ノ宣誓ヲ爲スニ至ルマデハ王ノ憲法上ノ權力ハ白耳義國民ノ名ニ於テ國務大臣ヲ以テ組織スル内閣會議ガ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ行

フ。

第八十條 王ハ滿十八歳ヲ以テ成年トス。

王ハ兩議院ノ會合ニ於テ正式ニ左ノ宣誓ヲ爲シタル後ニ非ザレバ王位ニ即クコトナシ。

『予ハ白耳義國民ノ憲法及法律ヲ遵守シ國民ノ獨立及領土ノ安全ヲ保持スルコトヲ誓フ。』

第八十一條 王崩スルニ當リ王嗣未ダ成年ニ達セサルトキハ兩議院ハ相會合シテ一院ト爲リ攝政及大傅ヲ選任ス。

第八十二條 王執政不能ニ陥ルトキハ國務大臣ハ其ノ不能ヲ確認シタル後直ニ兩議院ヲ召集ス。兩議院ハ相會合シテ攝政及大傅ヲ選任ス。

第八十三條 攝政ハ一人ニ限ル。

攝政ハ第八十條ニ定メタル宣誓ヲ爲シタル後ニ非ザレバ其ノ職ニ就クコトナシ。
第八十四條 攝政ヲ置クノ間憲法ヲ變更スルコトヲ得ズ。

第八十五條 王位闕位ト爲ルトキハ兩議院ハ其ノ共同會議ニ於テ假ニ攝政ヲ選任シタル後兩議院ノ全部ヲ改選ス、改選セラレタル兩議院ハ遅クモ二箇月以内ニ集會シ其ノ共同會議ニ於テ闕位ニ處スベキ手段ヲ確定ス。

第二節 國務大臣

第八十六條 出生ニ依リ白耳義人タル者又ハ大歸化ヲ得タル者ニ非ザレバ何人モ國務大臣ト爲ルコトヲ得ズ。

第八十七條 王族ハ國務大臣ト爲ルコトヲ得ズ。

第八十八條 國務大臣ハ自ラ議員タル場合ヲ除クノ外兩議院ノ何レニ於テモ表決ニ加ハルコトヲ得ズ。

國務大臣ハ各議院ニ出席スルノ權ヲ有ス、出席ノ請求アルトキハ議院ハ之ヲ許諾スベシ。

兩議院ハ國務大臣ノ出席ヲ請求スルコトヲ得。

第八十九條 如何ナル場合ニ於テモ王ノ口頭又ハ書面ニ依ル命令ニ依リ國務大臣ノ

責任ヲ免除スルコトヲ得ズ。

第九十條 代議院ハ國務大臣ヲ公訴シ之ヲ大審院ノ裁判ニ付スルノ權ヲ有ス、國務大臣ハ大審院ノ各部聯合會議ニ於テノミ之ヲ裁判スルノ權ヲ有ス、但シ被害者ヨリ提起スル民事訴訟及國務大臣ガ職務外ニ於テ犯シタル重罪輕罪ニ付法律ニ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ。

國務大臣ノ責任ヲ生ズベキ場合、國務大臣ニ科スベキ罰及代議院ノ公訴又ハ被害者ノ出訴ノ場合ニ於ケル訴訟手續ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第九十一條 王ハ兩議院ノ一ヨリ請求アリタル場合ヲ除クノ外大審院ノ宣告シタル國務大臣ノ罪ニ付恩赦ヲ爲スコトヲ得ズ。

第三章 司法權

第九十二條 民權ヲ目的トスル訴訟ハ裁判所專ラ之ヲ管轄ス。

第九十三條 參政權ヲ目的トスル訴訟ハ法律ノ定ムル特例ヲ除クノ外裁判所專ラ之ヲ管轄ス。

第九十四條 如何ナル裁判所、如何ナル裁判管轄モ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ設クルコトヲ得ズ。特別裁判所又ハ特別裁判委員會ハ如何ナル名稱ヲ以テスルヲ問ハズ之ヲ設クルコトヲ得ズ。

第九十五條 白耳義ノ全國ニ對シ一ノ大審院ヲ置ク。

大審院ハ國務大臣ノ裁判ヲ除クノ外事實ヲ審理スルコトナシ。

第九十六條 裁判所ノ裁判ハ之ヲ公開ス、但シ其ノ公開ガ秩序又ハ風俗ヲ害スベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ、此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ判決ヲ以テ其ノ旨ヲ宣告ス。

政治犯及出版ニ關スル犯罪ニ付テハ全員一致ニ依ルニ非ザレバ裁判ヲ公開セザル旨ヲ宣告スルコトヲ得ズ。

第九十七條 總テ判決ニハ理由ヲ附スベシ。判決ハ公開廷ニ於テ之ヲ宣告ス。

第九十八條 總テ重罪事件及政治犯竝ニ出版ニ關スル犯罪ニ付テハ陪審制ヲ用キル。

第九十九條 治安裁判所判事及始審裁判所判事ハ王直接ニ之ヲ任命ス。

控訴院判事及其ノ管轄ニ屬スル始審裁判所長竝ニ副所長ハ、一通ハ控訴院ヨリ一通ハ州會ヨリ提出スル二通ノ候補者名簿中ヨリ王之ヲ任命ス。

大審院判事ハ一通ハ元老院一通ハ大審院ヨリ提出スル二通ノ候補者名簿中ヨリ王之ヲ任命ス。

前二項ノ場合ニ於テ一ノ名簿ニ記載セラレタル候補者ハ他ノ名簿ニ記載セラルルコトヲ妨グズ。

提出セラレタル總テノ候補者名簿ハ任命ノ少クモ十五日前ニ之ヲ公示ス。

控訴院及大審院ハ其ノ判事中ヨリ院長及副院長ヲ互選ス。

第一百條 裁判官ノ任命ハ終身トス。

裁判官ハ判決ニ依ルニ非ザレバ其ノ職ヲ奪ハレ又ハ停止セララルコトナシ。

裁判官ノ任所ヲ轉スルハ新ナル任命ヲ以テシ且其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ爲

スコトヲ得ズ。

第一百一條 王ハ裁判所ニ附置セララルル檢事ヲ任免ス。

第一百二條 司法部ノ職員ノ俸給ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第一百三條 裁判官ハ政府ヨリ有給ノ官職ヲ受クルコトヲ得ズ、但シ法律ノ定ムル兼職禁止ノ場合ヲ除クノ外無償ヲ以テ他ノ職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラズ。

第一百四條 白耳義ノ全國ニ對シ三ノ控訴院ヲ置ク。

控訴院ノ管轄及之ヲ設置スベキ場所ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第一百五條 軍法會議ノ組織、權限、其ノ職員ノ權利義務及任期ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

法律ノ定ムル場所ニ商事裁判所ヲ置ク。商事裁判所ノ組織、權限、所員ノ選任方法及任期ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第一百六條 大審院ハ法律ノ定ムル手續ニ依リ權限爭議ヲ裁定ス。

第一百七條 裁判所ハ法律ニ適合スルモノヲ除クノ外政府、州又ハ地方ノ命令又ハ規則

ヲ適用スルコトナシ。

第四章 州及市町村ノ制度

第一百八條 州及市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

前項ノ法律ニハ左ノ原則ヲ採ルコトヲ要ス。

一 直接選舉主義、但シ市町村長及州會ニ於ケル政府委員ニ付テハ法律ヲ以テ特例ヲ定ムルコトヲ得。

二 專ラ州又ハ市町村ノ利害ニ關スル事件ハ之ヲ州會又ハ市町村會ノ權限ニ屬セシムルコト、但シ法律ノ定ムル場合ニ於テ法律ノ定ムル方法ニ依リ其ノ行爲ニ付認可ヲ受ケシムルコトヲ妨ゲズ。

二以上ノ州又ハ二以上ノ市町村ハ州又ハ市町村ノ利害ニ關スル事件ニ付共同ニ

之ヲ定メ之ヲ處理スル爲法律ノ定ムル條件及方法ヲ以テ相協議シ又ハ相聯合スルコトヲ得。但シ二以上ノ州會又ハ二以上ノ市町村會ガ共同ノ會議ヲ開クコトヲ得ズ。

本號第二項ハ一九二一年八月二四日ノ改正ニ依リ追加セラレタルモノナリ。

三 州會及市町村會ノ會議ハ法律ノ定ムル制限内ニ於テ之ヲ公開スルコト。

四 豫算及決算ハ之ヲ公示スルコト。

五 州會及市町村會ガ其ノ權限ヲ超ユ又ハ公共ノ利益ヲ害スルコトヲ防グ爲ニ王又ハ立法權ガ之ヲ監督スルコト。

第九條 身分上ノ行爲ヲ登録シ及其ノ登録簿ヲ保管スルコトハ專ラ市町村廳ノ權限ニ屬ス。

第四編 財政

第一百條 國稅ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ課スルコトヲ得ズ。

州稅其ノ他州ノ公課ハ州會ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ課スルコトヲ得ズ。

市町村稅其ノ他市町村ノ公課ハ市町村會ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ課スルコトヲ得ズ。

州稅又ハ市町村稅ニ關シ實驗上特例ヲ要スルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第一百一條 國稅ハ每年之ヲ議決ス。

國稅ヲ定ムル法律ハ其ノ更新セラルル場合ヲ除クノ外一年限リ其ノ效力ヲ有ス。

第一百十二條 租稅ニ關シテ特權ヲ設クルコトヲ得ズ。

租稅ノ免除又ハ輕減ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ。

第一百十三條 法律ニ依リ明ニ特例ヲ定メタル場合ヲ除クノ外國稅、州稅又ハ市町村稅ノ名義ヲ以テスルニ非ザレバ何等ノ課金ヲ國民ヨリ徵收スルコトヲ得ズ。但シ現在ノ「ポルデル」及「ワテリンゲン」ノ制ハ何等ノ變更ヲ受クルコトナク、之ヲ改定スルハ普通ノ立法權ニ依ル。

第十四條 國庫ノ負擔ニ屬スル恩給又ハ給與ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ給スルコトヲ得ズ。

第十五條 兩議院ハ毎年決算法ヲ定メ豫算ヲ議決ス。

國ノ總收入及總支出ハ之ヲ豫算及決算ニ掲載ス。

第十六條 會計検査院ノ検査官ハ法律ノ定ムル任期ヲ以テ代議院之ヲ選任ス。

會計検査院ハ政府ノ決算及國庫ニ對シ計算ノ義務ヲ負フ總テノ出納官吏ノ決算ヲ検査シ清算スルノ任務ヲ有ス。會計検査院ハ歳出豫算ノ各項ヲ超過スルモノナキヤ彼此流用シタルモノナキヤヲ検査シ、國ノ行政各部ノ決算ヲ確定シ、此ノ目的ノ爲ニ必要ナル一切ノ報告及計算書ヲ蒐集スルノ任務ヲ有ス。國ノ總決算ハ會計検査院ノ意見書ヲ添ヘテ之ヲ兩議院ニ提出ス。

會計検査院ノ組織ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第十七條 諸宗派ノ教職ノ俸給及恩給ハ國ノ負擔トス之ニ充ツベキ必要ナル金額ハ毎年之ヲ豫算ニ計上ス。

第五編 軍隊

第十八條 兵士ノ徵募ノ方法ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。軍人ノ進級、權利及義務ニ付テ亦同ジ。

第十九條 徵募兵數ハ毎年之ヲ議決ス。徵募兵數ヲ定ムル法律ハ其ノ更新セラルル場合ヲ除クノ外一年限リ其ノ效力ヲ有ス。

第二十條 憲兵ノ組織及權限ハ法律ノ定ムル所ニ依ル。

第二十一條 外國ノ軍隊ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ國ノ役務ニ供用シ又ハ國ノ領土ヲ占領シ若ハ通過セシムルコトヲ得ズ。

第二十二條 國民軍ヲ置キ其ノ編制ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

少クモ大尉ニ至ルマデノ各級ノ士官ハ國民軍ニ於テ之ヲ選任ス、但シ主計士官ニ關

スル必要ナル例外ハ此ノ限ニ在ラズ。

第二百二十三條 國民軍ノ動員ハ法律ニ依ルノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ。

第二百二十四條 軍人ハ法律ノ定ムル方法ニ依ルニ非ザレバ其ノ階級、榮譽及恩給ヲ奪ハルルコトナシ。

第六編 通則

第二百二十五條 白耳義國民ノ國旗ハ赤、黃、黒ノ三色トス、王國ノ軍旗ハ「リユーニオン」

エー、ラ、フオー、ス（カナ致ハ）ノ古語ヲ附記セル白耳義獅子トス。

第二百二十六條 白耳義ノ首府及政府所在地ハ「ブリユツセル」市トス。

第二百二十七條 宣誓ハ法律ニ依ルニ非ザレバ課セラルルコトナシ、法律ハ宣誓ノ方式ヲ定ム。

第二百二十八條 白耳義國內ニ在ル總テノ外國人ハ法律ノ定ムル例外ヲ除クノ外身體

及財産ニ付與ヘラルル保護ヲ享ク。

第二百二十九條 法律又ハ政府、州若ハ市町村ノ命令若ハ規則ハ法律ノ定ムル方式ヲ以

テ公布シタル後ニ非ザレバ拘束力ヲ生ズルコトナシ。

第二百三十條 憲法ハ其ノ全部又ハ一部ヲ停止セララルルコトナシ。

第七編 憲法ノ改正

第三百一十一條 立法權ハ憲法中ノ特定ノ條項ヲ指定シテ其ノ改正ノ必要アルコトヲ宣言スルノ權ヲ有ス。

前項ノ宣言アリタルトキハ兩議院ハ當然解散ス。

此ノ場合ニ於テハ第七十一條ニ從ヒ更ニ新兩議院ヲ召集ス。

兩議院ハ改正ノ必要アリトセラレタル條項ニ付王ノ同意ヲ得テ改正ヲ議決ス。
前項ノ場合ニ於テ各議院ハ議員全數ノ少クモ三分ノ二ノ出席アルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ、又投票者少クモ三分ノ二ノ贊成アルニ非ザレバ改正ヲ可決スルコトヲ得ズ。

第八編 經過規程

第三十二條 始メテ國ノ元首ヲ選定スルニ當リテハ第八十條第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得。

第三十三條 一千八百十四年一月一日以前ヨリ白耳義ニ定住シ引續キ住所ヲ有スル外國人ハ本條ノ利益ヲ享クルノ意思アルコトヲ宣言スルコトノ條件ノ下ニ之ヲ出生ニ依リ白耳義人タル者ト看做ス。

前項ノ宣言ハ成年者ナルトキハ此ノ憲法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ、未成年者ナルトキハ其ノ成年ニ達シタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ爲スベシ。

其ノ宣言ハ其ノ住所地ヲ管轄スル州ノ行政廳ニ對シ之ヲ爲スベシ。
宣言ハ自ラ之ヲ爲シ又ハ公證セラレタル特別ノ委任狀ヲ携帶スル代理人ニ依リ之ヲ爲スベシ。

第三十四條 法律ヲ以テ別ニ規定ヲ設クルマデハ代議院ハ國務大臣ノ公訴ニ付任意裁量ノ權ヲ有シ、大審院ハ國務大臣ノ犯罪及處罰ヲ定ムルニ付任意裁量ノ權ヲ有ス。

但シ其ノ處罰ハ刑法ニ依リ明ニ定メラレタル場合ヲ除クノ外免官ヲ超ユルコトヲ得ズ。

第三十五條 裁判所ノ職員ハ法律ヲ以テ別ニ規定ヲ設クルマデハ現狀ノ儘トス。
此ノ法律ハ第一會期ニ於テ之ヲ提出スベシ。

第三十六條 大審院判事ノ第一回ノ選任ノ方法モ亦第一會期ニ於テ提出スル法律

ヲ以テ之ヲ定ムベシ。

第三百三十七條 一千八百十五年八月二十四日ノ憲法ハ之ヲ廢止ス、州制及市町村制亦同ジ。

但シ州及市町村ノ行政廳ハ法律ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマデ從來ノ權限ヲ維持ス。

第三百三十八條 憲法施行ノ日ヨリ以後之ト牴觸スル總テノ法律、命令、規則及其ノ他ノ行爲ハ其ノ效力ヲ失フ。

第四十七條附則 憲法第四十七條ニ定メタル條件ヲ備ヘ一千九百十九年五月九日ノ法律第二條ニ定メタル資格ノ何レカ一ニ該當スル女子ハ憲法第四十七條ニ定メタル公民ト等シク選舉權ヲ有ス。(一九二一年二月七日)

第五十二條附則 第五十二條第一項ノ規定ハ一千九百十九年乃至一千九百二十年ノ會期ニ之ヲ適用ス。(一九二〇年一月一五日)

第五十三條附則 代議院議員ニ付憲法第四十七條ニ定メタル公民ト等シク選舉權ヲ

與ヘラレタル女子ハ第五十三條第一號ニ定ムル元老院議員ノ選舉ニ付テモ等シク之ニ參加スルコトヲ得。(一九二一年一月一五日)

第五十六條ノ二附則 第十四號、第十七號、第十八號及第十九號ニ定ムル五年ノ期間及第十六號ニ定ムル三年ノ期間ハ此ノ規定ノ最初ノ適用ニ付テハ之ヲ二年トス。(一九二一年一月一五日)

補 則

第三百三十九條 國民會議ハ左ニ掲グル諸件ニ付各特別ノ法律ヲ以テ成ルベク速ニ之ヲ規定スル必要アルコトヲ宣言ス。

- 一 出版
- 二 陪審制
- 三 財政
- 四 州制及市町村制
- 五 國務大臣及其ノ他ノ官吏ノ責任

- 六 裁判所ノ構成
 - 七 恩給簿ノ改正
 - 八 兼職濫用ノ弊ヲ防グ適當ナル手段
 - 九 破産及債務猶豫ニ關スル立法ノ修正
 - 十 軍ノ編制、進級及退職ノ權利並ニ軍刑法
 - 十一 法典ノ修正
- 行政權ハ本法執行ノ責ニ任ズ。

白耳義國代議院規則

(一八三一年十月五日制定。—改正、一八三五年三月二十五日、一八三六年三月十六日、一八四三年十二月二十一日、一八五〇年十一月二十三日、一八六〇年五月九日、一八七五年四月三十日、一八八二年三月十七日、一八八三年四月二十五日、一八八四年一月二十九日及十一月十八日、一八八九年六月十四日、一八九二年七月二十六日及十一月二十九日、一八九七年一月二十九日、一八九八年十二月二十日、一八九九年十月十七日、一九〇一年三月二十八日及二十九日、一九〇八年十一月二十七日)

第一章 假理事部及資格審査

第一條 會期ノ初ニ於テハ最年長者議長席ニ就ク。
最年少議員四人理事員ノ職務ヲ行フ。

第二條 全部又ハ半數改選ノ場合ニ於テハ當選者ノ資格ヲ審査セシムル爲六個ノ委員會ヲ組織ス。各委員會ハ抽籤ニ依リ七人ヲ以テ之ヲ組織ス。當選者タル議員ハ總テ此ノ審査ニ參加ス、但シ當選認可ガ延期セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ。前項ノ場合ヲ除クノ外當選者ノ資格審査ハ抽籤ニ依ル議員七人ヨリ成ル一委員會之ヲ行フ。

第三條 選舉記録ハ證據物件ト共ニ之ヲ六委員會ニ配付ス。各委員會ハ報告者一人ヲ選任シ該委員會ノ審査ノ結果ヲ議院ニ報告セシム。

第四條 議院ハ當選ノ效力ヲ議決ス。當選有效ナリト決セラレタル者ハ議長之ヲ議員トシテ宣告ス。

第二章 本理事部

第五條 資格審査終リタル後、議院ハ議長一人、副議長二人及理事員四人ノ選舉ヲ行フ。

第六條 前條ノ選舉ハ總テ過半數ヲ以テ之ヲ決ス。(一)議長ノ選舉(二)第一副議長ノ選舉

(三)第二副議長ノ選舉ハ順次單記投票ヲ以テ之ヲ行フ。

理事員ノ選舉ハ連記投票ヲ以テ之ヲ行フ。(一八五〇年十一月二十三日可決)。

投票二回ニ及ビ尙決セザルトキハ第三回ノ投票ハ之ヲ決選投票トシ、比較多數ヲ以テ之ヲ決ス。

得票數相等シキトキハ最年長者ヲ以テ當選者トス。

第七條 理事員投票者ノ數ヲ審査シ、抽籤ニ依リ定メタル開票者開票ヲ行フ。

第八條 議院成立シタルトキハ其ノ旨ヲ國王及元老院ニ報告スベシ。

第九條 議長ハ院内ノ秩序ヲ維持シ、規則ヲ遵守セシメ、發言ヲ許可シ、議題ヲ宣示シ、投票ノ結果ヲ宣告シ、議院ノ議決ヲ宣シ、及議院ノ名ニ於テ其ノ意見ニ從ヒ之ヲ代表スルノ職務ヲ有ス。

議長ハ現在ノ議題ヲ説明シテ注意ヲ喚起スル爲ニスル場合ヲ除クノ外討議中ニ於

テ發言スルコトヲ得ズ。議長討論セント欲スルトキハ、議長席ヲ離ルベク、其ノ議題ニ關スル討議終了スルニ至ル迄再ビ議長席ニ就クコトヲ得ズ。

第十條 理事員ハ議事録ノ編纂ヲ監督シ、請求ノ順序ニ從ヒ議員ノ發言ノ請求ヲ登録シ、議案、修正案、其ノ他議院ニ報告スルコトヲ要スル書類ヲ朗讀シ、決議ヲ記録シ、氏名點呼ヲ行ヒ、投票ヲ記録シ、其ノ他總テ理事部ノ任務ニ屬スル事務ヲ行フノ職務ヲ有ス。

理事員ハ討議中ニ發言スルコトヲ得。但シ、其ノ都度議員席ニ就クコトヲ要ス。

第十一條 總テ理事部員ノ任期ハ一會期トス、但シ臨時休會ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ。議長及副議長アラザルトキハ、最年長者ガ議院又ハ其ノ代表議員團ヲ主宰ス。理事員アラザルトキハ、最年少議員其ノ職務ヲ行フ。(一八七五年四月三十日可決)。

第三章 會議

第十二條 議長ハ會議ヲ開始シ、及散會ヲ宣ス。

議長ハ各會議ノ終リニ、院議ニ諮ヒタル後、次ノ會議ノ日及議事日程ヲ宣ス。議事日程ハ議場内ニ揭示スベシ。緊急ノ議事ノ爲反對ノ議決アリタル場合ヲ除クノ外、月曜日及土曜日ニ於テハ會議ヲ開クコトナシ。

議院別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外、會議ノ開始ハ一時四十五分トス。(一八九二年十一月二十九日可決)。

第十三條 開議ノ三十分前ニ於テ出席簿ヲ議員ノ手許ニ差出シ、議員ヲシテ之ニ署名スルコトヲ得ベカラシムベシ。

所定ノ開議時刻ニ於テ議長ハ出席簿ヲ檢査シ、直ニ會議ヲ開キ、又ハ出席簿ニ署名セザル議員ノ氏名點呼ヲ行ハシム。

再點呼ハ之ヲ行ハズ。但シ議長ハ點呼ノ閉止以前ニ出席シ、點呼ニ應ヘザル議員ニ對

シ出席簿ノ記入ヲ求ムベシ。
出席者定足數ニ滿タザルトキハ、議長ハ會議ヲ開カザルコトヲ宣シ、翌日ヨリ四日以
内ニ於テ次ノ會議ノ日ヲ定ム。
出席議員表ハ議事録ニ掲載ス。出席者定足數ニ滿タザルトキハ出席議員及闕席議員
ノ表ヲ議院年報ニ掲グ。該表ニハ病氣ノ爲闕席スル旨ノ届出ヲ爲シタル議員ノ氏名
ヲ追記スベシ。(一八七五年四月三十日可決)。

第十四條 前ノ會議ノ議事録ハ開議ノ三十分前ニ於テ理事部ニ提出スベシ。

議員ハ何人ニテモ開議中議事録ノ記載ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得。

議事録ノ記載ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ理事員ノ一人ハ必要ナル釋明ヲ爲

ス爲ニ發言スルノ權利ヲ有ス。

前項ノ釋明ニ拘ラズ尙異議アルトキハ議長ハ之ヲ院議ニ諮フベシ。

異議ガ可決セラレタルトキハ理事部ハ會議中又ハ遅クモ次ノ會議日ニ於テ議院ノ
議決ノ趣旨ニ從ヒ新ニ議事録ヲ作製シテ之ヲ提出スベシ。

議事録ニ對スル異議ノ申立ナクシテ會議終ルトキハ議事録ハ可決セラレタルモノ
トス。(一八七五年四月三十日可決)。

第十五條 理事員ハ毎日前會議以來議院ニ提出セラレタル請願ノ要旨ヲ議院年報中
ノ議事要録ニ載録シ該請願ニ付審査ノ爲ニ之ヲ委員會ニ回付スルコト、議院事務局
ニ於テ之ヲ保存スルコト、又ハ請願ガ歸化ノ請求ニ關スル場合ニ於テハ之ヲ司法大
臣ニ回付スルコトヲ提議スベシ。

各議員ハ次ノ三會議日ノ何レカ一ニ於テ之ト異ル提議ヲ爲スコトヲ得。提議ナキト
キハ、理事員ノ提議ガ可決セラレタルモノトス。(一八七五年四月三十日可決)。

第十六條 議長ハ議院ニ送付セラレタル通牒、書翰其ノ他ノ回付物ニシテ議院ニ關係
アルモノヲ議院ニ報告ス。但シ無記名ノ書類ハ此ノ限ニ在ラズ。(一八七五年四月三十
日可決)。

第十七條 國務大臣及政府委員ノ爲ニ議場ニ特別席ヲ設ク。

第十八條 議員ハ發言請求ノ登錄ヲ受ケタル後、又ハ自席ヨリ議長ニ發言ヲ求メテ其

ノ許可ヲ得タル後ニ非ザレバ發言スルコトヲ得ズ。

發言ハ請求又ハ登録ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スベシ。

前項ノ順序ハ討議中ノ議案ニ對シ賛成者修正者及反對者ニ交互ニ發言權ヲ與フルガ爲ニスル場合ヲ除クノ外之ヲ變更スルコトヲ得ズ。國務大臣及報告者ハ何時ニテモ發言スル權利ヲ有ス。(一八九七年一月二十九日可決)。

修正ノ發言ハ修正案ヲ提出セントスル議員ノミ之ヲ爲スコトヲ得。其ノ修正案ハ演壇ヲ去ルニ當リ之ヲ理事部ニ提出スベシ。

演說者ハ議長又ハ議院ニ對スルノ外演說ヲ爲スコトヲ得ズ。議員ノ演說ハ自席ヨリ又ハ演壇ニ起立シテ之ヲ爲スベシ。報告議案又ハ修正案ノ説明及書類ノ朗讀ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スベシ。

第十九條 惡意ノ非難、其ノ他ノ人身攻撃、贊成又ハ反對ヲ表スル言動ハ總テ之ヲ禁止ス。

第二十條 中央部又ハ委員會ノ報告ニ關シテ行ハルベキ討議ニ於テハ演說者ハ其ノ文書ノ朗讀又ハ提出アリタル後ニ非ザレバ發言請求ノ登録ヲ求ムルコトヲ得ズ。

第二十一條 何人モ其ノ發言中ニ於テハ規則違反ノ警告ヲ受クルノ外發言ヲ妨ゲラルルコトナシ。演說者議題ノ範圍外ニ出ヅルトキハ議長ノミ之ニ警告ヲ爲スコトヲ得。演說者同一ノ演說中ニ於テ二回議題外タルコトノ警告ヲ受ケタル後尙議題外ニ出ヅルトキハ議長ハ其ノ會議ノ終ル迄同一ノ議題ニ付該演說者ノ發言ヲ禁止スベキヤ否ニ付院議ニ諮フベシ。

第二十二條 何人モ議院ノ別段ノ議決アル場合ヲ除クノ外同一ノ議題ニ付二回ヨリ多ク發言スルコトヲ得ズ。

第二十三條 議院ハ何時ニテモ討議ニ於テ國務大臣及報告者ヲ除クノ外演說者ノ發言ヲ一定ノ時間ニ制限スルノ議決ヲ爲スコトヲ得。(一八九七年一月二十九日可決)。

第二十四條 議題ヲ明白ニスル爲規則違反ヲ注意スル爲又ハ一身上ノ事件ニ答辯スル爲ニハ何時ニテモ發言ヲ請求スルコトヲ得。

第二十五條 議事日程、優先權及規則違反ノ注意ニ關スル異議ノ申立ハ本議題ニ優先シ本議題ノ議事ハ之ニ依リ停止セラル。先決問題ノ動議即チ議事ヲ爲スコトヲ要セ

ズトスル動議、延期ノ動議即チ討議又ハ表決ヲ一定ノ時迄延期スベシトスル動議ハ本議題ニ先チテ表決ニ付セラル。(一八七五年四月三十日可決)。

第二十六條 議題ヲ表決ニ付スル順序ハ總テノ意見ヲシテ最モ能ク其ノ效果ヲ表ハシ得ベカラシムベキ方法ニ依ルコトヲ要ス。

之ガ爲ニハ左ノ規定ニ從フベシ。

數個ノ問題ヲ包含スル議案ニ在リテハ請求アルトキハ當然分割シテ表決ニ付ス。

同一ノ點ニ關シテ數個ノ提案アリタル場合ニ於テハ、他ノ提案ノ表決ヲ除斥スルコトナクシテ表決ニ付スルコトヲ得ベキ提案ヲ先ヅ表決ニ付ス。互ニ其ノ表決ガ他ノ提案ノ表決ヲ除斥スベキ關係ニ在ル數個ノ提案中ニ在リテハ其ノ範圍最モ廣キモノヲ先ヅ表決ニ付ス。(一八七五年四月三十日可決)。

第二十七條 議員二十人(一八九九年十月十七日可決)ヨリ討論終結ノ請求アルトキハ、議長ハ之ヲ表決ニ付ス。討論終結ノ請求ニ對シテハ賛成又ハ反對ノ發言ヲ爲スコトヲ得。

表決ノ爲ニスル二回ノ起立ノ間ニ於テハ發言ヲ爲スコトヲ得ズ。

討論終結ニ先チ議長ハ議事ガ討論終結ニ熟スルヤ否ヤヲ院議ニ諮フベシ、其ノ表決ノ結果ガ二回ノ起立ヲ行ヒタル後尙疑ハシキトキハ討論ヲ繼續ス。(一八七五年四月三十日可決)。

第二十八條 表決ハ起立ニ依リ之ヲ行フ、但シ議員十人以上ヨリ(一八九九年九月二十八日可決)氏名點呼ノ請求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。法律案ノ全部ニ關スル表決ハ常ニ氏名點呼ニ依リ之ヲ行フ。

理事部ハ氏名點呼ノ請求ヲ爲シタル議員ノ氏名ヲ記録スベシ氏名點呼ハ此等ノ議員ヨリ之ヲ始ム。

此等ノ議員中應答セザル者十人ニ及ブトキハ、氏名點呼ノ請求ハ拋棄セラレタルモノト看做ス。

法律案ノ各條及之ニ對スル修正案ノ表決ニ關シテハ第一項及第三項ノ十人ハ之ヲ五人トス。(以上三項一八九九年九月二十八日可決)。

起立ニ依ル表決ハ先ヅ賛成者ヲ起立セシメ次ニ反對者ヲ起立セシムル二回ノ起立ヲ行フニ非ザレバ完了セズ。議長及理事員ハ賛成者及反對者ノ起立ノ結果ヲ決定ス。其ノ結果疑ハシキトキハ之ヲ反復スルコトヲ得。反復シタル後尙疑ハシキトキハ氏名點呼ヲ行フ。

氏名點呼ノ後議長ハ表決ニ加ハラザル議員ニ對シ表決ニ參加スルコトヲ求ムベシ。
(一八七五年四月三十日可決)。

投票ノ計算ハ議長及理事員之ヲ決ス。

毎日最初ノ氏名點呼ニ依ル表決ヲ行フニ先チ、「若シ氏名點呼ヲ請求シタル議員アリタルトキハ其ノ議員ノ點呼ヲ終ヘタル後ニ於テ、」(一八九九年九月二十八日可決)抽籤ニ依リ先ヅ點呼ヲ開始スベキ議員ノ氏名ヲ定ム。同一會議中他ノ議事ニ付氏名點呼ヲ行フ場合ニ於テ亦之ニ同ジ。

第二十九條 個人的又ハ地方的利益ニ關スル數個ノ法律案ガ一體トシテ提出セラレ、且ツ同一報告中ニ包含セラレ、之ニ對シ異議ノ申立ナキトキハ、其ノ全部ニ付一回ノ

氏名點呼ヲ以テ採決ス。

第三十條 議題ガ表決ニ付セラルルニ當リ議院ニ出席セル議員ニシテ投票ヲ爲サザル者アルトキハ議長ハ氏名點呼ノ後ニ於テ之ニ對シ其ノ表決ニ加ハラザル理由ヲ示スコトヲ求ムベシ。

第三十一條 議院ノ會議ヲ祕密會ト爲スベキコトヲ請求スル議員ハ、其ノ請求ヲ書面ニ認メ且ツ之ニ署名スベシ。
其ノ氏名ハ之ヲ議事録ニ記載ス。

第三十二條 政府ニ對シ質疑ヲ爲サントスル議員ハ質疑書ヲ議長ニ送付スベシ。質疑書ニハ三人ヨリ多ク署名ヲ爲スコトヲ得ズ。質疑書ニハ質疑事項ヲ簡明ニ且ツ註釋ヲ加フルコトヲクシテ明白ナラシムル爲ニ必要ナル字句ノミヲ記載スベシ。
議長ハ之ヲ當該國務大臣ニ回付ス。國務大臣ハ之ニ對スル答辯書ヲ議長ニ送付スベシ。其ノ送付ハ答辯書ヲ質疑書ト共ニ議事要録及議院年報ニ登載スベキ時期迄ニ行ハルルコトヲ要ス。答辯書ノ登載ハ議院ガ國務大臣ノ同意ヲ得テ緊急ノ宣言ヲ爲シ

タル場合ヲ除クノ外質疑書ノ提出アリタル次ノ火曜日ニ於テ之ヲ爲ス、但シ質疑書ガ遅クモ木曜日ノ會議中ニ提出セラレタル場合ニ限ル。(一九一三年二月二十六日及二十七日可決)。

答辯書ハ討論ノ目的ト爲ルコトナシ。(一九〇一年三月二十八日及一九〇八年十一月二十七日改正)。

第三十三條 政府ニ對シ質問ヲ爲サントスル議員ハ、其ノ質問ノ事項ヲ書面ヲ以テ議長ニ申出ヅベシ。

議長ハ其ノ書面ヲ朗讀セシム。(一八九七年一月二十九日可決)。

質問ハ次ノ火曜日ノ會議ノ議事日程ニ記載ス、若シ既ニ記載セラレタル他ノ質問アルトキハ其ノ次ニ記載ス。

質問ノ説明ハ半時間ヲ超ユルコトヲ得ズ。

當該國務大臣直ニ發言ヲ爲サザルトキハ質問ハ終結トシ、質問者ニ限り尙十五分以内ノ間發言スルコトヲ得。

政府ノ答辯アリタル後質問者ヲ合セテ四人以内ノ演說者ガ尙發言スルコトヲ得、質問者ハ最初ニ發言スル權利ヲ有ス。演說ハ各十五分以内ニ限ル。

議員五分ノ一ヨリ請求アルトキハ質問ノ日ハ一層早キ會議日ヲ擇ビ又ハ政府ノ同意アルトキハ即日之ヲ開クコトヲ得。

此ノ場合ニ於テハ演說者ノ數及各演說者ニ對スル時間ノ制限ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ。

一ノ質問ハ一會議日ヲ以テ終結ス。此ノ原則ハ出席議員三分ノ二ノ多數ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外之ヲ變更スルコトナシ。(以上七項一九〇一年三月二十八日可決)。

第四章 紀 律

第三十四條 議員秩序ヲ紊ストキハ、議長ハ指名シテ之ニ警告ス、警告ニ對シ異議アルトキハ議長ハ之ヲ院議ニ諮フ。議院其ノ警告ヲ可決スルトキハ議事録ニ其ノ旨ヲ記載ス。

第三十五條 議院ハ議長ノ提議ニ基キ秩序ヲ紊ス議員ニ對シ議事録ニ掲載スル譴責又ハ登院停止ヲ宣告スルコトヲ得。(一八九七年一月二十九日可決)。

第三十六條 登院停止ヲ宣告セラレタル者ハ議院ノ議事ニ參加シ及議院内ニ入ルコトヲ得ズ。(一八九七年一月二十九日可決)。

第三十七條 登院停止ハ其ノ宣告アリタル會議日ノ殘部ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス。(一八九七年一月二十九日可決)。

第三十八條 登院ヲ停止セラレタル議員ガ議院ヲ退出スベキ旨ノ議長ノ命令ニ從ハザルトキハ、其ノ會議ヲ中止シ又ハ延會ス。

前項ノ場合ニ於テハ其ノ議員ハ當然次ノ八會議日ノ間登院ヲ停止セラル。(一八九七年一月二十九日可決)。

第三十九條 登院停止ヲ受ケタル議員ハ書面ヲ以テ議院ノ決定ヲ無視シタルコトヲ遺憾トスル旨ノ宣言ヲ爲スコトニ依リ、其ノ宣言ノ翌日以後其ノ效力ヲ消滅セシムルコトヲ得。此ノ宣言ノ朗讀ハ議院ニ於テ議長之ヲ爲ス。(一八九七年一月二十九日可決)。

第四十條 前條ノ規定ハ、同一會期中登院停止ヲ受クルコト三回ニ及ビタル議員ニハ之ヲ適用セズ。

此ノ場合ニ於テハ停止ノ期間ハ十五會議日ニ及ブモノトス。(一八九七年一月二十九日可決)。

第四十一條 登院停止期間中ニ於テ停止ヲ命ゼラレタル議員ノ投票ニ依リ議決ノ結果ニ異動ヲ生ズベキ場合アルトキハ停止止ミタル後同一事件ニ付再ビ表決ヲ爲スコトヲ要ス。但シ議院ガ停止期間中ニ於テ該議員ノ表決參加ヲ許可スルコトヲ適當ト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。(一八九七年一月二十九日可決)。

第四十二條 議場騷擾ニ陥ルトキハ議長ハ會議ヲ中止セント欲スル旨ヲ宣スベシ。騷

擾尙繼續スルトキハ議長ハ會議ヲ一時間中止シ其ノ間議員ハ各其ノ所屬ノ部ニ集合ス。其ノ時間經過スルトキハ會議ハ當然ニ再開セラル。

第四十三條 議長ハ秩序ニ違背スル發言又ハ發言權ヲ有セザル議員ノ爲シタル發言ヲ議院年報及議事要録ヨリ削除セシムルコトヲ得。(一八九七年一月二十九日可決)。

第五章 議案

第四十四條 國王又ハ元老院ヨリ代議院ニ提出スル法律案「及之ニ附屬スル理由說明書」(一九〇一年三月二十九日可決)ハ「佛蘭西語及フラマン語ヲ以テ」(一八九八年十二月二十日可決)之ヲ印刷シ第六章ニ定ムル方法ニ依リ討議セシムル爲ニ之ヲ各部又ハ委員會ニ配付ス。(一八九七年一月二十九日可決)。
議院ニ於テ緊急事件タルコトノ議決ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外各部ニ於ケル討議

ハ前項ノ配付アリタル後少クモ三日ヲ經ルニ非ザレバ開始スルコトヲ得ズ。

第四十五條 各議員ハ議案ヲ提出シ及修正案ヲ提出スル權利ヲ有ス。

議案又ハ修正案ハ六人ヨリ多キ議員ノ署名アルコトヲ得ズ。(一八七五年四月三十日可決)。

第四十六條 法律案ノ表題ハ兩國語ヲ以テ其ノ首部ニ記載ス。

第一欄ニハ專ラ提案者ノ提出セル正文ヲ記載シ、第二欄ニ他ノ正文ヲ記載ス。(一九〇一年三月二十八日可決)。

第四十七條 提案ヲ爲サント欲スル議員ハ署名シテ之ヲ理事部ニ提出スベシ。「提案ハ提案者ノ任意ニ或ハ兩國語ヲ以テシ或ハ一國語ヲ以テスルコトヲ得。後ノ場合ニ於テハ理事部ニ於テ之ヲ翻譯セシム。

提案ハ兩國語ノ正文ヲ加ヘテ」(一八九八年十二月二十日可決)之ヲ議院ノ各部ニ送付ス。少クモ一ノ部ニ於テ提案ノ審議ヲ進行セシムベキコトヲ可決スルトキハ「提案ハ兩國語ヲ以テ」(一九〇一年三月二十九日可決)之ヲ印刷シ進行意見書ト共ニ之ヲ配付

ス。此ノ場合ニ於テハ提案者ハ該提案ヲ審議ニ付スベキヤ否ヤニ付討議ヲ爲スベキ日ヲ提議スベシ。〔一八九七年一月二十九日可決〕。

議案提出ノ後一箇月ヲ經過スルモ進行意見書ヲ理事部ニ回付スル者ナキトキハ提案ハ無効トシ提案ナカリシモノト看做ス。〔一八九八年十二月二十日可決〕。

第四十八條 〔議院ノ定ムル日ニ於テ〕〔一八九七年一月二十九日可決〕議案ニ付少クモ五人ノ議員ノ賛成アルトキハ討議ヲ開始シ議長ハ該議案ヲ審議ニ付スベキヤ、延期スベキヤ又ハ審議スベカラズト決スベキヤニ付之ヲ院議ニ諮フ。

第四十九條 議院議案ヲ審議ニ付スベキコトヲ議決スルトキハ該議案ヲ委員會又ハ各部ニ回付シ、委員會又ハ各部ハ之ヲ討議シテ其ノ報告ヲ爲ス。

第五十條 中央部又ハ委員會ヨリ報告アリタル後行フベキ討議ハ之ヲ一般討議及逐條討議ノ二トス。

第五十一條 一般討議ニ於テハ議案ノ主義及其ノ全般ニ付討議ス。一般討議及逐條討議ノ外議院ハ議案ヲ區分シ其ノ各區分ノ全般ニ付討議ヲ爲スベキコトヲ定ムルコトヲ得。

トヲ得。

第五十二條 逐條討議ハ條ノ順序ヲ逐ヒ各條及其ノ修正案ニ付順次ニ之ヲ行フ。

第五十三條 修正案ハ書面ヲ以テ作製シ之ヲ理事部ニ提出スベシ。

第五十四條 修正案ハ進行意見書ノ提出アリタル後少クモ議員五人ノ賛成アルニ非ザレバ議院ハ其ノ審議ヲ爲スコトナシ。議院該修正案ヲ各部又ハ委員會ニ送付スベキコトヲ議決シタルトキハ議院ハ其ノ審議ヲ中止スルコトヲ得。

第五十五條 討議中ニ生ジタル修正案ノ表決ハ單一ノ國語ノ正文ニ付之ヲ爲スコトヲ得。其ノ正文可決セラレタルトキハ理事部ニ於テ第二回ノ表決以前ニ於テ之ヲ翻譯セシムベシ。〔一八九八年十二月二十日可決〕。

討議ガ他ノ會議日ニ延期セラレタルトキハ修正案ハ提出者ノ氏名ト共ニ〔兩國語ヲ以テ〕〔一八九八年十二月二十日可決〕之ヲ印刷シテ議員ニ配付ス。

討議ニ付スベキ日以前ニ提出セラレタル總テノ修正案ニ付テモ亦前項ニ同ジ。〔一八九八年十二月二十日可決〕。

第五十六條 修正案ガ可決セラレ又ハ議案ノ條項ガ否決セラレタルトキハ議案ノ全體ニ對スル表決ハ其ノ最後ノ條項ガ議決セラレタル會議ト異ル會議日ニ於テ之ヲ行フ。

此等ノ二會議ノ間ニハ少クモ一日ヲ隔ツベシ。

第二回ノ會議ニ於テハ可決セラレタル修正案否決セラレタル條項及其ノ可決又ハ否決ニ基キ提出セラレタル新修正案ニ付討議及表決ヲ行フ。其ノ他ノ新修正案ハ總テ之ヲ提出スルコトヲ得ズ。

前項ノ可決又ハ否決ニ基キ提出セラレタル新修正案ガ可決セラレタルトキハ議院ハ確定議決ヲ後ノ會議日ニ延期スベキコトヲ議決スルコトヲ得。

前項ニ依リ延期ノ議決アリタルトキハ其ノ新ニ修正セラレタル條項ハ兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シテ配付ス。

何レノ場合ニ於テモ兩國語ヲ以テ作製セル正文ノ全體ニ付單一ノ表決ヲ行フ。(以上四項一八九八年十二月二十日可決)。

第五十七條 國ノ總豫算ヲ定ムル法律案ノ討議及表決ニ付テハ本規則ノ一般規定ニ依ラズ左ノ方法ニ依ル。

一、法律案ノ全般ニ關スル討議ノ後豫算表ノ各項ニ付規則ノ定ムル所ニ從ヒ審議ニ付シ其ノ一般討議ヨリ第二回ノ表決ニ至ル。

二、議院ハ次デ起立採決ヲ以テ又ハ適法ナル請求アル場合ニ於テハ氏名點呼ヲ以テ法律案ノ正文ニ付豫算表ノ各項ニ該當スル部分ノ表決ヲ行フ。

三、法律案ノ全體ニ付氏名點呼ヲ行フニ先チ必要アルトキハ各部分的ノ確定議決ヲ調和スルコトヲ目的トスル議案ノミニ關シ修正ノ表決ヲ行フ。(一八八四年二月二十九日可決)。

第五十八條 提出セラレタル豫算ガ各別ノ法律案ヲ爲ス場合ニ於テハ本規則第五十七條及第六十八條ノ規定ヲ適用セズ。(一八八四年十一月十八日可決)。

第五十九條 議案ノ討議開始セラレタル後ニ於テモ提案者ハ之ヲ撤回スルコトヲ得但シ他ノ議員ニ於テ該議案ヲ採擇スル者アルトキハ討議ハ繼續ス。

第六十條 總テ議決ハ選舉及推薦ニ付本規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外投票ノ過半數ヲ以テ決ス。

可否同數ナルトキハ審議中ノ議案ハ否決セラレタルモノトス。

議院ハ其ノ議員ノ過半數出席スルニ非ザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ズ。

議院ノ審議ノ結果ハ左ノ語ニ依リ議長之ヲ宣告ス。

「議院ハ……………ヲ可決シタリ」又ハ

「議院ハ……………ヲ否決シタリ」。

第六十一條 候補者ノ選舉及推薦ハ秘密投票ヲ以テ之ヲ行フ。

第六章 部及委員會

第六十二條 法律案ノ提出アルトキハ、議長ハ其ノ最モ適當ト認ムル所ニ依リ各部又

ハ委員會ノ何レニ之ヲ送付スベキカヲ議院ニ提議スベシ。(一八八九年六月十四日可決)。

第六十三條 議院ハ抽籤ニ依リ其ノ議員ヲ六部ニ分別ス。

部ノ改正ハ毎月抽籤ニ依リ之ヲ行フ。

各部ハ投票ノ過半數ヲ以テ部長一人、副部長一人及理事員一人ヲ選任ス。(一八八九年六月十四日可決)。

第六十四條 各部ハ議院ノ指定シタル順序ニ從ヒ送付セラレタル議案及修正案ヲ審查ス。

前項ノ審查終リタル後部ハ投票者ノ過半數ヲ以テ報告者一人ヲ選任ス。

第六十五條 三分ノ二ノ部ガ審查ヲ終ヘタルトキハ其ノ選任シタル報告者ヨリ之ヲ議長ニ通知ス、議長ハ審查未了ノ部ニ豫告シタル後各部ノ報告者ヲ招集シ自己ノ主宰ノ下ニ中央部ヲ組織ス。

第六十六條 中央部ハ議院ニ報告ヲ爲サシムル爲ニ過半數ヲ以テ部員一人ヲ選任ス。

第六十七條 前條ノ報告ニハ各部及中央部ニ於ケル審議ノ要綱ノ外理由ヲ附シタル結論ヲ掲載スベシ。

報告ハ〔兩國語ヲ以テ〕(一九〇一年三月二十九日可決)印刷シ本會議ノ討議ノ少クモ二日前ニ之ヲ配付スベシ。但シ議院ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。第六十八條 國ノ總豫算ヲ包含スル法律案ノ審査ノ爲ニ各部ガ選任スル報告者ノ數ハ三八トス。

前項ノ法律案ノ審査ヲ爲スベキ中央部ニハ第六十五條ノ規定ニ依ル議長ノ外兩副議長モ之ニ参加ス。

中央部ハ過半数ヲ以テ豫算ノ全體及其ノ各部分ニ就キ議院ニ報告ヲ爲スベキ者ヲ其ノ部員中ヨリ選任ス。

補充費又ハ臨時費ノ請求ハ常ニ其ノ屬スル年度ノ豫算案ヲ審査シタル中央部ニ直接ニ送付ス。(一八八三年四月二十五日可決)。

第六十九條 議院ハ各會期中院内ニ左ノ二個ノ常設委員會ヲ設ク。

財政委員會。

農工商委員會。

第七十條 前條ノ委員會ハ議員七人ヲ以テ之ヲ組織ス但シ議院必要ト認ムルトキハ其ノ員數ヲ増加スルコトヲ得。

第七十一條 各委員會ノ委員ハ第六條ノ規定ニ從ヒ連記投票ニ依リ過半数ヲ以テ之ヲ選任ス。

第七十二條 兩常設委員會ハ各其ノ名稱ノ示ス事項ニ關シテ左ノ職務ヲ有ス。

一、議院ヨリ議案ニ關シテ蒐集スルコトヲ命ゼラレタル總テノ參考材料ヲ議院ニ提供スルコト。

二、議院ヨリ送付ヲ受ケタル議案ヲ審査シ其ノ議案ニ就テ報告ヲ爲シ及理由ヲ附シタル結論ヲ提示スルコト。

三、議院ニ於テ委員會ニ送付スルノ價值アリト認メタル請願ニ關シ必要ニ應ジ決議案ヲ作製スルコト。

四、決議案ヲ議院ニ提出スルコト。

第七十三條 各部ヨリ毎月各其ノ部員一人ヲ選任シテ請願委員會ヲ組織ス。請願委員會ハ請願ヲ審査シ及其ノ報告ヲ爲ス職務ヲ有ス。

第七十四條 常設委員會及請願委員會〔又ハ此等ノ委員會ニ於テ必要ト認メタルニ因リ設置シタル小委員會〕（一八九七年一月二十九日可決）ノ外議院ハ一若ハ二以上ノ議案ヲ審査セシムル爲特別委員會ヲ設クルコトヲ得、特別委員會ノ委員ハ投票ノ過半數若ハ比較多數ニ依リ、抽籤ニ依リ、又ハ議院ノ請求アルトキハ議長ニ於テ之ヲ選任ス。

第七十五條 各委員會ハ過半數ヲ以テ委員中ヨリ委員長一人理事員一人及各事項ニ付報告者一人ヲ選任ス。

〔議長又ハ其ノ委任ニ基キ副議長ノ一人ハ議長ノ適當ト認ムル場合ニ於テ委員會ニ議長トナル。〕（一八八九年六月十四日可決）。

第七十六條 委員會ノ報告ハ〔兩國語ヲ以テ〕（一九〇一年三月二十九日可決）之ヲ印刷

シ、本會議ニ於ケル討議ノ少クモ三日前ニ之ヲ配付ス、但シ議院別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

第七十七條 議案提出者ガ該議案ノ審査ヲ爲ス委員會又ハ中央部ノ一員ニ非ザルトキハ提出者ハ其ノ委員會又ハ部會議ニ出席スルコトヲ得、但シ表決ニ加ハルコトナシ。

第七十八條 請願委員會ハ其ノ月中ニ到達シタル請願中其ノ適當ト認メタルモノ又ハ其ノ公表後三日以内ニ議員ヨリ書面ヲ以テ要求アリタルモノニ付報告ヲ爲ス。報告ハ之ヲ理事部ニ提出シ其ノ提出アリタル日ノ會議ノ次ニ之ヲ議院年報ニ印刷ス。

議院ハ毎月第一及第三金曜日ニ於テ請願ニ付議決ス、請願ニ付討議ヲ爲スベキ會議日ノ少クモ三日前ニ於テ請願ニ關スル報告ノ結論ヲ紙片ニ印刷シテ之ヲ配付ス。前項ノ紙片ニハ請願者ノ氏名及住所、請願事項、番號及報告ノ結論ヲ掲載ス。請願委員會ニ於テ緊急ノ必要アリト議決シタルトキハ議院ハ第一項ノ規定ニ拘ラ

ズ報告提出ノ時ニ於テ其ノ討議ヲ爲スベキ日ヲ定ム。

請願委員會ハ報告ヲ爲サザル請願ニ付自ラ議決ス。

前項ノ議決ハ翌月十日ニ特別ノ紙片ヲ以テ之ヲ公刊ス。該紙片ニハ其ノ他委員會ガ議決ヲ爲サズ又報告ヲモ爲サザリシ請願ヲモ掲載スベシ。

委員會ガ議決及報告ヲ爲サザリシ請願ハ翌月ノ委員會之ヲ審査ス。(一八八二年三十七日可決)。

第七十九條 理事部ハ單一ノ國語ヲ以テ提出セラレタル報告又ハ其他ノ文書ノ翻譯ヲ爲サシムルコトヲ得。(一八九八年十二月二十日可決)。

第七章 代表議員團及上奏書

第八十條 代表議員團ハ抽籤ニ依リ之ヲ選任ス。議員團ヲ組織スル員數ハ議院之ヲ定

ム。議長又ハ副議長ノ一人ハ常ニ其ノ一員ト爲リ之ヲ代表シテ發言ス。

第八十一條 上奏案ハ議長及議院又ハ各部ニ於テ過半數ヲ以テ選任シタル議員六人ヲ以テ組織スル委員會之ヲ起草ス。上奏案ハ之ヲ議院ノ議決ニ付シ可決セラレタルトキハ之ヲ其ノ會議ノ議事録ニ掲載ス。

第八章 書記、議事録及印刷

第八十二條 議院ハ書記一人ヲ選任ス。書記ハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得。

前項ノ選任ハ理事部ノ選任ト同様ノ規則ニ從フ。

書記ノ任期ハ六年トス。

第八十三條 書記ハ理事部ノ監督ヲ承ケテ議事録及請願ノ紙片ヲ作製シ、議院ノ記録ヲ保管スルノ職務ヲ有ス。

第八十四條 議事録ハ理事員ノ一人ノ承認ヲ受ケタル後ニ非ザレバ之ヲ理事部ニ提出スルコトヲ得ズ。

第八十五條 公開ノ會議タルト秘密會タルトヲ問ハズ議事録ハ其ノ可決セラレタル後直ニ之ヲ「二部ノ帳簿ニ記録シ議長及理事員一人之ニ署名ス。」（一八九八年十二月二十日可決）。

第八十六條 議院ハ其ノ秘密會ノ議事録ヲ作ラザルコトヲ議決スルコトヲ得。

第八十七條 氏名點呼ニ依リ表決シタル總テノ決議ニ付テハ各議員ハ自己ノ投票ヲ議事録ニ掲載スルコトヲ請求スルコトヲ得、但シ如何ナル場合ニ於テモ議事録ニ其ノ賛否ノ理由ヲ掲載セシムルコトヲ得ズ。

第八十八條 書記ハ公開ノ會議ニ出席ス。議院ガ秘密會トナルトキハ議院ノ反對ノ議決アル場合ヲ除クノ外書記ハ退場スベシ。

第八十九條 書記ハ議院ノ命ズル印刷ヲ處理ス。印刷物ノ校正、命ゼラレタル印刷物ノ配付、招集狀及紙片ノ送付ハ書記之ヲ行ヒ又ハ之ヲ監督ス。

書記ハ書記課及圖書室ニ附屬セル使用人ヲ監督ス。

第九十條 書記病氣又ハ故障アル場合ニ於テハ理事員ノ一人其ノ職務ヲ行フ。

第九十一條 議院ハ適當ト認ムルトキハ自己ノ費用ヲ以テ議院ニ提出セラレタル議案、各部及委員會ノ報告、議院ノ職務ニ關スル其ノ他ノ文書、理由説明書、議案ノ進行意見書、其ノ他一般ニ印刷ヲ要スル書類ヲ印刷セシム。

議院ハ場合ニ依リ此等ノ書類中其ノ或ルモノヲ官報ニ掲載セシムルニ止ムルコトヲ得。

第九章 會計員及會計委員會

第九十二條 二人ノ議員又ハ議院適當ト認ムルトキハ之ヨリ多數（註一）ノ議員ガ會計員ノ職務ヲ行フ。

(註一) 一九〇〇年七月十八日ノ會議ニ於テ代議院ハ會計員ノ數ヲ三人トスルコトヲ議決セリ。

第九十三條 會計員ハ連記投票ニ依リ理事部ト同様ノ方法ヲ以テ之ヲ選任ス、其ノ任期ハ二年トス。

第九十四條 會計員ハ代議院ノ設備、儀禮及經費ニ關スル一切ノ事務ヲ處理スル職務ヲ有ス。

第九十五條 會計員ハ議事堂ノ維持方法及其ノ他總テ兩議院ニ共通ノ關係ヲ有スル事務ニ關シテ元老院ノ選任シタル同一任務ヲ有スル職員ト協議ス。

第九十六條 「議長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル副議長ノ一人」(一八八九年六月十四日可決)ノ主宰ノ下ニ議員六人ヲ以テ會計委員會ヲ組織シ、議院經費ニ關スル會計検査ノ職務ヲ行ハシム。

前項ノ委員會ノ委員ハ每會期ノ初ニ本會議又ハ各部ニ於テ議院之ヲ選任ス。

第九十七條 會計委員會ハ總テノ會計ヲ検査確定ス、未確定ノ前會計ニ付テモ亦同ジ、

委員會ハ議院ニ屬スル動産ノ全般ヲ審査ス。委員會ハ會計員ノ提案ニ基キ議院ノ豫算ヲ編製シ之ヲ議院ノ議決ニ付ス。

第十章 圖書室

第九十八條 議院ノ豫算ニハ毎年圖書室ノ爲ニ經費ヲ割當ツルコトヲ要ス。

會計員ハ前項ノ經費ニ依リ議院ノ必要ニ應ジテ其ノ職務ニ最モ有用ナルベキ書籍及文書ヲ購入ス。

第九十九條 書籍ハ領收書ヲ出ダスニ非ザレバ之ヲ圖書室ヨリ帶出スルコトヲ得ズ。各議員ハ四十八時間ヨリ多ク書籍ヲ保持スルコトヲ得ズ。

第一百條 圖書室ノ圖書目錄ハ議員ノ自由閱覽ニ供ス。

第一百一條 事務上ノ必要アルトキハ議院ハ特ニ圖書係ノ職務ヲ爲スベキ雇員ヲ命ズ

ルコトヲ得(註二)其ノ選任ノ方法及任期ハ書記ニ同ジ。

(註二) 一八四二年十二月十五日ノ會議ニ於テ本條ヲ適用シテ圖書係ノ任命ヲ行ヒタリ。

第二百二條 憲法、議院規則、兩議院相互ノ間竝ニ兩議院ト國王トノ關係ニ關スル規定及選舉法ハ之ヲ議院ノ總テノ議員ニ配付ス。

第十一章 議院ノ雇員及傭人

第二百三條 議院ノ雇員及傭人ハ過半數ニ依リ議長、理事員及會計員之ヲ任免ス。

第十二章 議院警察及傍聽席

第二百四條 議院警察ハ議院ノ權能ニ屬ス。議長ハ議院ノ名ニ於テ議院警察權ヲ行ヒ守衛ニ必要ナル命令ヲ發ス。

第二百五條 議員其ノ他正當ノ權利ヲ有スル者ヲ除クノ外如何ナル事由アルヲ問ハズ何人モ會議中ノ議場ニ入ルコトヲ得ズ。

第二百六條 傍聽席ニ在ル者ハ會議中ヲ通ジテ著座シ脱帽シ且ツ沈黙ヲ守ルベシ。

何人ト雖モ秩序ヲ紊ス者ハ直ニ之ヲ傍聽席ヨリ退去セシム。必要アル場合ニ於テハ遲滯ナク之ヲ當該官憲ニ引渡スベシ。

本條ハ印刷ニ付シテ之ヲ傍聽席ノ各入口ニ揭示ス。

第十三章 憲法ノ改正(註三)

(註三) 第一百七條乃至第一百五條ノ規定ハ一八九二年七月二十六日可決セラレタリ。

第七條 立法府ニ於テ憲法中ノ條項ニ付之ヲ改正スベキ必要アリト議決シタルトキハ議院ハ新會期ノ初ニ於テ其ノ議決ヲ議長ヲ合セテ二十一人ノ議員ヨリ成ル委員會ノ審査ニ付ス。

前項ノ委員ハ本規則第六條及第七十一條ノ定ムル所ニ依リ連記投票ヲ以テ議院之ヲ選任ス。

第八條 前條ノ委員會ハ議長之ヲ主宰ス。委員會ハ委員中ヨリ副委員長一人及理事員二人ヲ選任ス。

第九條 改正スベキ條項ニ對スル修正案又ハ之ニ代ハルベキ新案ハ議院ニ於テ豫メ其ノ審査ヲ委託シ、之ヲ審議ニ付スルコトヲ議決シ、又ハ各部ヲシテ審査セシムルコトヲ要セズシテ、總テ之ヲ委員會ノ審査ニ付ス。

第十條 委員會ハ會期終了ノ後ニ於テモ引續キ會議ヲ開キ直接ニ政府又ハ議員ノ發案ニ係ル提案ヲ受理スルコトヲ得。

第十一條 提案ノ正文ハ政府、議員、委員會又ハ委員ノ一人ノ何レノ發案ニ係ルヲ問

ハズ、提案者ノ希望アルトキハ之ヲ印刷ニ付シ議員ニ配付スベシ。

提案ヲ支持スル爲ニ提出セラルル理由説明書ニ付テモ前項ニ同ジ。

第十二條 委員會ハ其ノ會議ノ議事録ヲ印刷シ及之ヲ議員ニ配付スルコトヲ命ズルコトヲ得。

第十三條 總テ議決ハ投票ノ過半数ニ依ル。

委員會ハ委員ノ過半数出席スルニ非ザレバ議決ヲ爲スコトヲ得ズ。

第十四條 國務大臣ハ委員會ノ會議ニ出席スルコトヲ得。國務大臣ノ要求アルトキハ其ノ發言ヲ許可スルコトヲ要ス。

第十五條 委員會ハ一人又ハ數人ノ報告者ヲ選任ス。

代議院議員ノ歳費ニ關スル規定

一 歳費ハ選舉ノ翌月一日ヨリ之ヲ給ス、但シ其ノ選舉ガ後ニ有效ト決セラルルコトヲ要ス、歳費ハ議員ガ任期ノ滿了、死亡又ハ辭職ニ依リ其ノ職ヲ失ヒタル月ノ終リ迄之ヲ給ス。

歳費ハ一年ヲ三箇月ヅツ四期ニ分チ各期ノ第三月ノ初ニ之ヲ支給ス。

(一八九四年六月九日理事部決議)

二 議員ヨリ請求アルトキハ歳費ハ毎月之ヲ支給スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ毎月ノ金額ハ左ノ計算ニ依ル。

各期第一月	三二〇フラン
各期第二月	三二〇
各期第三月	三六〇

計 一〇〇〇

(一八九五年十一月十九日及二十六日理事部決議)

宣誓ニ關スル法律 (一八三一年七月二十日)

白耳義國民ノ名ニ於テ
國民議會ハ

憲法第二百二十七條 『宣誓ハ法律ニ依ルニ非ザレバ課セラルルコトナシ、法律ハ宣誓
ノ方式ヲ定ム』ノ規定ニ基キ
左ノ如ク定ム。

第一條 代議院及元老院議員ハ其ノ職務ニ就クニ先チ議院内ニ於テ左ノ宣誓ヲ爲ス
コトヲ要ス。

『余ハ憲法ヲ遵守スルコトヲ誓フ』
(第二條以下略)

議院ノ查問ニ關スル法律 (一八八〇年五月三日)

第一條 憲法第四十條ニ依リ議院ニ與ヘラレタル查問權ハ次條以下ノ規定ニ依リ之ヲ行フ。

第二條 各議院ハ議院自ラ又ハ院内ニ於テ組織シタル委員會ニ依リ此ノ權利ヲ行フ。

第三條 委員會ハ議院ノ定ムル規則ニ依リ之ヲ組織シ及審議ヲ行フ。

委員會ニ於テ查問ヲ爲ス場合ニ於テハ各議員ハ之ニ出席スルノ權利ヲ妨ゲラルルコトナシ。

委員會ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ陳述ヲ聽ク場合ニ於テハ其ノ會議ヲ公開ス、但シ委員會ニ於テ反對ノ議決ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

第四條 刑事訴訟法ニ依リ豫審判事ニ屬スル權限ハ議院、查問委員會及其ノ議長又ハ委員長ニ屬ス。

議院ハ查問ヲ行フコトヲ決スルニ當リ前項ノ權限ヲ制限スルコトヲ得。

此ノ權限ハ之ヲ他ノ者ニ委任スルコトヲ得ズ、但シ議院又ハ委員會ガ必要ノ場合ニ於テ特ニ定ムル檢證ノ爲ニ訊問ヲ爲スノ權ハ此ノ限ニ在ラズ。
前項但書ノ權限ハ檢證ヲ爲スベキ區域ヲ管轄スル控訴院判事又ハ第一審裁判所ノ判事ニ限リ之ヲ委任スルコトヲ得。

第五條 招喚ハ各場合ニ應ジ議院ノ議長、查問委員會ノ委員長又ハ受託判事ノ請求ニ依リ執達吏之ヲ行フ。招喚ノ令狀ハ緊急ノ場合ヲ除クノ外少クモ二日前ニ之ヲ發スルコトヲ要ス。

第六條 議長又ハ委員長ハ會議ノ警察權ヲ行フ。

議長又ハ委員長ノ警察權ハ裁判所ノ裁判長ニ屬スル權限ト同一ノ制限ニ服ス。

第七條 查問ヲ行ヒ又ハ之ニ列席スル議員ニ對スル侮辱又ハ暴行ハ刑法第二卷第五編第二章兩議院ノ議員ニ對スル侮辱又ハ暴行ニ關スル規定ニ依リ之ヲ處罰ス。

第八條 證人、通譯及鑑定人ハ議院、委員會又ハ受託判事ニ對シ豫審判事ニ對スルト同一ノ義務ヲ負フ。其ノ拒絕又ハ不履行ハ同一ノ處罰ニ服ス。

宣誓ハ裁判所ニ於ケルト同一ノ方式ニ依ル。

第九條 偽證ノ罪、通譯又ハ鑑定人虛偽ノ陳述ヲ爲シタル罪、證人、鑑定人又ハ通譯請託ヲ受ケタル罪ヲ犯シタル者ハ二月以上三年以下ノ禁錮ニ處シ、五年以上十年以下其ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス。

證人、鑑定人又ハ通譯虛偽ノ陳述ヲ爲ス爲ニ金錢又ハ何等ノ種類ヲ問ハズ報酬ヲ受ケ又ハ其ノ約束ヲ爲シタル者ハ前項ノ刑ノ外五十フラン以上三千フラン以下ノ罰金ヲ附加ス。

前項ノ刑ハ之ヲ請託者ニモ適用ス、但シ他ノ刑ヲ妨グルコトナシ。

偽證ノ罪ハ證人が虚偽ノ證言ヲ爲シ且ツ之ヲ固守スルコトヲ宣言スルニ依リ完成ス。

證人が陳述ノ爲ニ再ビ招喚セララルル場合ニ於テハ偽證ノ罪ハ證人が其ノ證言ヲ固守スルコトノ最後ノ宣言ヲ爲スニ非ザレバ完成セズ。

第十條 犯罪ヲ認證スベキ調書ハ該事件ヲ管轄スベキ控訴院ノ檢事長ニ之ヲ送付ス。

酌量スベキ情狀アルトキハ刑法ニ依リ刑ヲ輕減ス。

第十一條 查問ニ於テ出頭ヲ求メタル者ニ對スル手當ハ民事事件ニ於ケル費用ト同一ノ法則ニ依ル。

第十二條 查問ニ基ク費用ハ查問ヲ行フコトヲ議決シタル議院ノ經費豫算中ヨリ之ヲ支辨ス。

第十三條 查問委員會ノ權限ハ查問ヲ行フコトヲ議決シタル議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ消滅ス。

會期終リタルトキハ議院ガ別段ノ議決ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外其ノ權限ハ停止セラル。

議院ノ解散ガ既ニ提出セラレタル法律案ニ及ボス效果ニ

關スル法律 (二八九三年七月一日)

第一條 兩議院ノ解散ノ場合ニ於テハ未ダ何レノ一院ニ於テモ可決セラレザリシ法律案ハ提出セラレザリシモノト看做ス。解散前何レカ一院ニ於テ既ニ可決セラレ他ノ一院ニ於テ未ダ可否ヲ決スルニ至ラザリシ法律案ハ新議會ニ於テ更ニ之ヲ送付スルコトヲ要セズシテ他ノ一院ニ於テ之ヲ審議ス。

第二條 兩議院ノ何レカ一ノ解散ノ場合ニ於テハ解散セラレタル議院ニ提出セラレ其ノ院ニ於テ未ダ可決セザリシ法律案ハ提出セラレザリシモノト看做ス。解散前他ノ議院ニ於テ既ニ可決シタル法律案ハ更ニ之ヲ送付スルコトヲ要セズシテ新議院ニ於テ之ヲ審議ス。解散セラレタル議院ニ於テ既ニ可決シタル法律案ハ他ノ議院ニ於テ引續キ之ヲ審議ス。

第三條 此ノ法律ハ遡及ノ效力ヲ有ス。

議院ノ解散ガ既ニ提出セラレタル法律案ニ及ボス效果ニ關スル法律

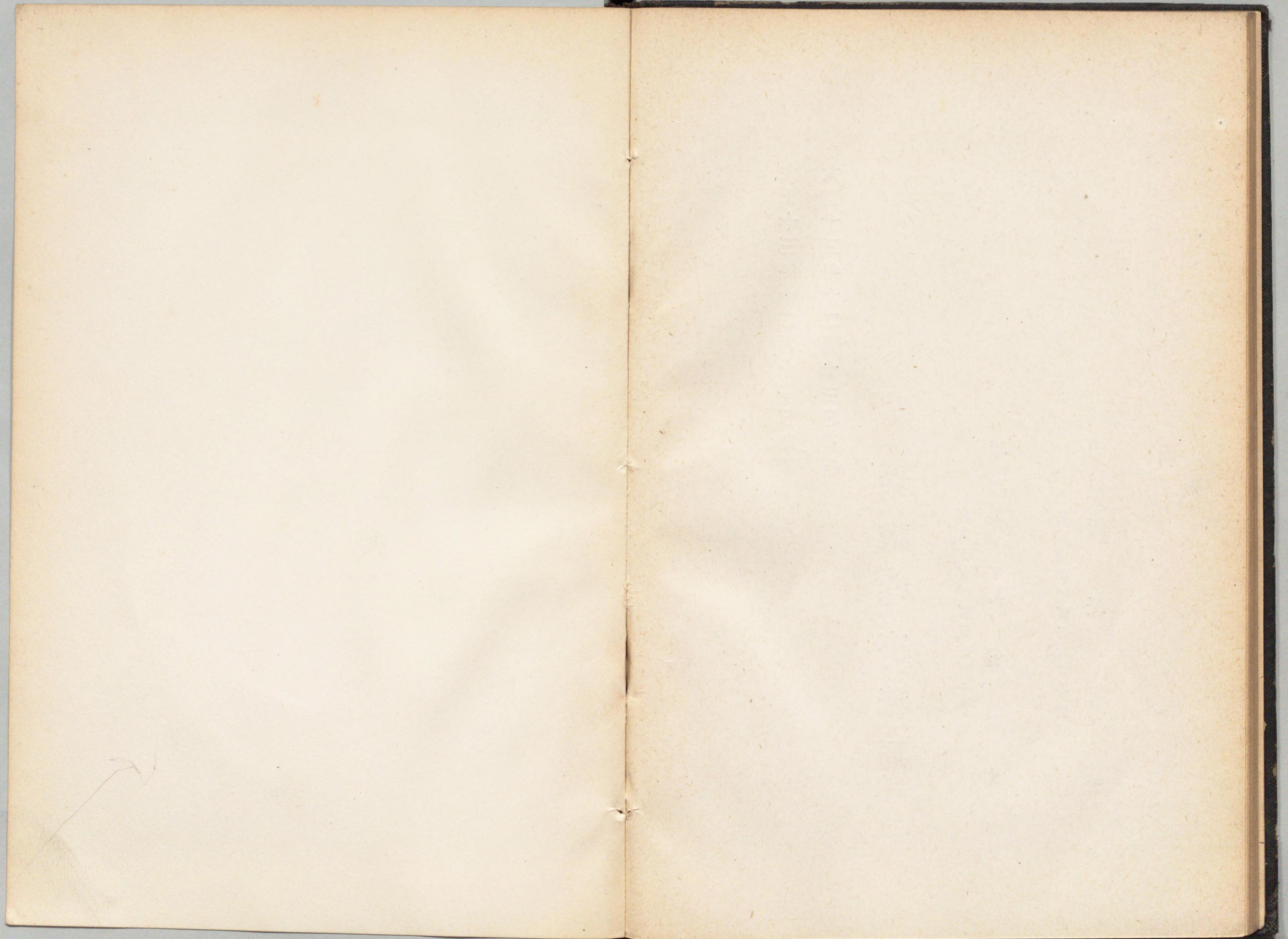
第四條 此ノ法律ハ公布ノ翌日ヨリ之ヲ施行ス。

大正十三年十二月十一日印刷
大正十三年十二月十三日發行

衆議院事務局

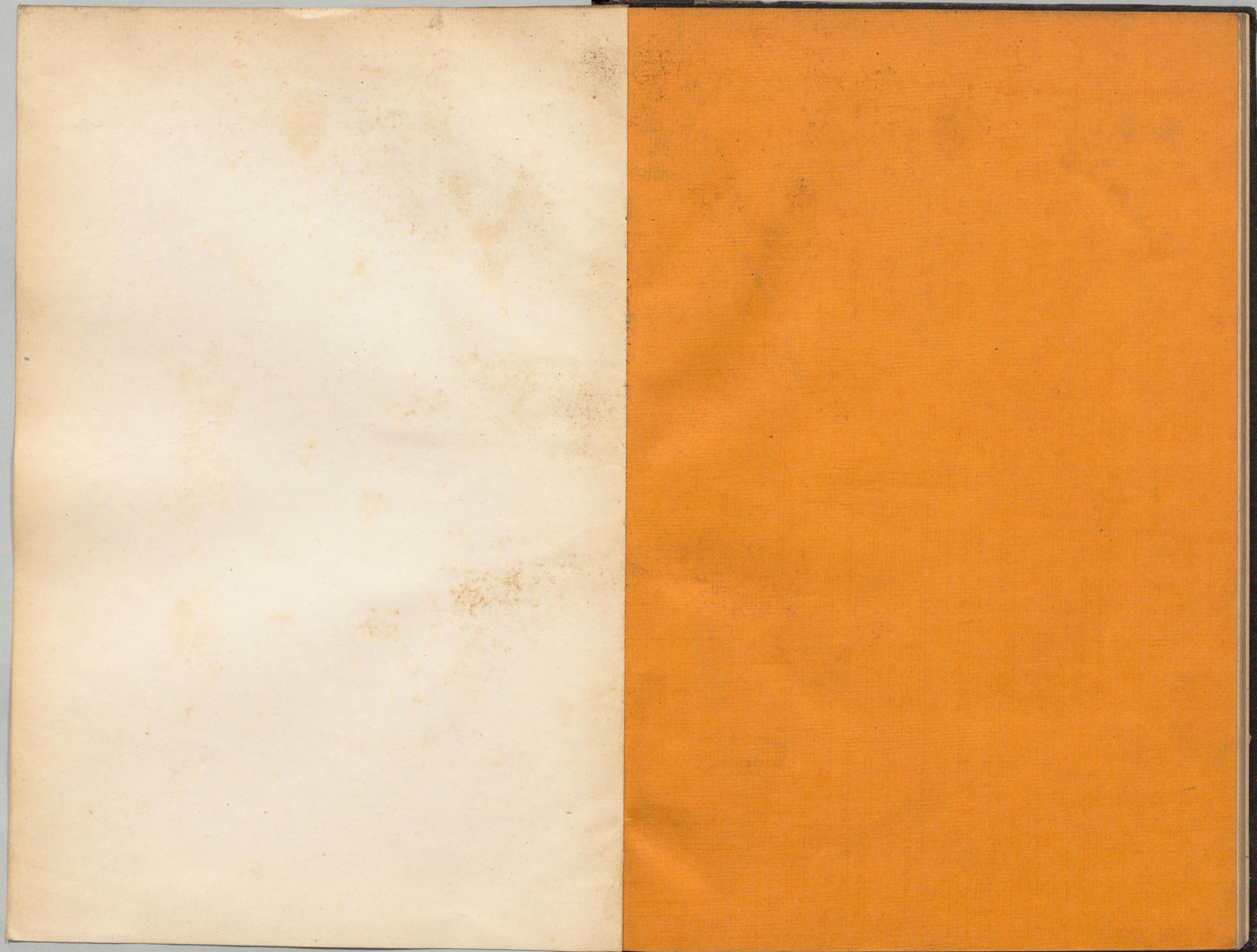
印刷者 渡邊爲藏
東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社
東京市京橋區日吉町十番地



14.3
75





143
75

143
75

